



GOOD
HOLDINGS

SUSTAINABILITY REPORT 2024

グッドホールディングスグループ サステナビリティレポート

Challenge To The Future

未来への挑戦



未来への挑戦

グッドホールディングスグループは、創業以来、その時代の社会課題を解決することで進化してきました。どんな時も、社会とその未来を見据え、解決すべき社会課題を前にして素直に、真摯に取り組み、その度に自らも進化する。これが1953年から続く私たちの事業の軌跡です。そして70年の時を経た今、未来の地球と、そこに生きる子どもたちのために、環境ビジネスがこれまでにない重要な役割を担う時代となりました。

2023年1月、バイオガス発電施設「西宮バイオガス発電プラント」が竣工しました。私たちが描く「地域で出た食品廃棄物でエネルギーを創り、地域で使う」未来が動き出します。

私たちの使命は、子どもたち、そのまた子どもたちが暮らす社会をよりよいものにする環境ビジネスを創っていくこと。これからも、社会課題に目を逸らすことなく未来への挑戦を続けてまいります。

CORPORATE MESSAGE

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事なんだろうと。
どこであろうと。はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、わずかだけ先に、
進ませるものであると信じたい。

捉えよう。そこにある問題を、わたしたちにしかない目で。
応えよう。わたしたちにしかできない方法で。
超えていこう。今あるわたしたちの姿を。

Challenge To The Future

編集方針

「サステナビリティレポート」は、お客様をはじめ、地域住民の方々や従業員とその家族、ステークホルダーのみならずグッドホールディングスグループがめざす姿や持続的な成長、企業価値向上の取り組みについて、より一層ご理解いただけるよう毎年発行しております。

2023年度は昨年度発足した長期ビジョンプロジェクトに続き、グループ全体で「Challenge to the Future (未来への挑戦)」をテーマに制作いたしました。

対象組織

グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大栄衛生、株式会社大協(報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載しております)

対象期間

2023年度(2023年4月~2024年3月)

※活動報告に一部2024年度を含む

発行月

2024年9月(次回:2025年9月予定)

対象分野

事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン

社会的責任に関する国際規格「ISO26000」
GRIガイドライン第4版/環境省「環境報告ガイドライン」

本レポートでは、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目をもとに、「コーポレート・ガバナンス(組織統治、公正な事業慣行)」、「環境における取り組み(環境)」、「従業員とともに(人権、労働慣行)」、「地域社会とともに(消費者課題、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展)」のとおり、編集しております。

CONTENTS

01-02	未来への挑戦
03-04	トップメッセージ
05-06	経営理念/行動指針/SDGsへの取り組み
07-08	グッドホールディングスグループ概要/沿革
09	財務情報・非財務情報
10	2023年度トピックス

11-14	「エネルギーの地産地消」をめざす 西宮バイオガス発電プラント PROJECT STORY
-------	--

事業紹介

15-20	株式会社リヴァックス
21-22	株式会社リリーフ
23-24	株式会社ダイキョウクリーン
25-26	株式会社大栄衛生
27-28	株式会社大協

ESGの取り組み

30-34	コーポレート・ガバナンス
35-42	環境における取り組み
43-47	従業員とともに
48-58	地域社会とともに ISO26000対照表

TOP MESSAGE

社会課題の解決を使命に、 環境ビジネスに挑戦し続ける

創業以来、社会課題解決をテーマに さまざまなビジネスを展開

当グループは、創業以来、その時代の社会課題に向き合い、社会のニーズに応えるために社会課題解決型の環境ビジネスを構築、展開してまいりました。

高度成長期に創業し、一般家庭のごみが増え始めた時期に「家庭ごみ収集事業」を開始、産業廃棄物の適正処理が求められた1970年代に「産業廃棄物処理事業」に着手、高齢化社会における独居老人の孤独死問題、それに伴う遺品整理業者の不正請求問題が社会課題となったことから「おかたづけ事業」をスタートしました。

また、昨今の食品ロスの課題に取り組む「食品リサイクル事業」、飲食店の環境衛生に貢献する「グリストラップ清掃事業」、環境ビジネス業界における深刻な人材不足に貢献する「エッセンシャルワーカーに特化した人材派遣事業」を展開しております。

2023年にはサステナビリティ委員会を設置、 TCFD提言への取り組みも

さらに、当グループは、気候変動をはじめとした地球規模の環境問題への配慮、人権の尊重、従業員を含む全てのステークホルダーへの公正・適正な事業活動など、社会や企業のサステナビリティを巡る課題解決を事業機会と捉え、これに向けた取り組みを推進するため「サステナビリティ委員会」を2023年11月に設置いたしました。

サステナビリティ基本方針の策定や、気候変動への対応としてTCFD提言の枠組みに沿った情報開示を行うなど、社会的責任を果たす経営に引き続き取り組んでまいります。

2023年度は、複数の新規ビジネスが 成長のフェーズへ

2015年にはホールディングス体制をとり、現在5つの事業会社がビジネスを展開しております。2023年度は、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社リヴァックスのswell事業部、株式会社大協のGキャリア事業部など、2010年度以降に取り組んだ新規事業がより力強い成長のフェーズに入ったと実感しました。各事業会社がそれぞれ独自の方向性を打ち出し、独自のイメージを持ちながら大きく歩み出したと感じています。

このことは、2015年にホールディングス化した際に私が思い描いていた理想形といえます。10年の時を経て、各事業会社が「社会課題解決」という共通のテーマをもちながらも、それぞれの個性を持ち、独自の展開に向かっていることを嬉しく思います。そして、このような事業を立ち上げ、率いている各社の社長たちは、新卒採用で入社したプロパー社員を含む30代から50代の若い世代であることも、当グループの大きな特徴と言えるかもしれません。

この先は、各事業会社が ホールディングスの枠を超え、独自展開へ

グループ全体としては、ここから先は、各事業会社が中期3カ年計画をしっかりと達成し、地道に積み重ねていくことで、ホールディングスの枠を超え、独自に展開していきましょう。現在の当社は「各事業会社の成長をサポートするためのプラットフォーム」として存在していますが、各事業会社が成長したその先は、各々の専門性に合わせた独自の管理体制、労務環境が必要になってきます。その時は当社が

サポートできる範囲を超えているかもしれません。これからは、「ホールディングス体制の意味」をもう一度問う時期になると思います。

「働く人が豊かになる」ことにも 応えていく企業でありたい

会社の役割は、「働く人に豊かになってもらう」ことだと考えています。つまり、会社が成長することで、自らの成長と共に経済的にも豊かになること、それに応えていくことが会社としての役割です。

そしてもうひとつ、「安心して働ける」ことも大切です。「安心して働ける環境」こそ、働く人が「成長できる土壌」であると考えます。そのため、経営においては徹底した透明性を重んじ、労務環境の整備には継続的に取り組んでいます。

当グループは、この度、各事業会社のさらなる飛躍に向けて新卒採用活動を再開しました。「会社で働く」ということは「会社の成長の中に自らの身を置くこと」です。働いて豊かになるには、会社の成長とともに自らも成長していかなければなりません。私たちは、社員一人ひとりが生涯にわたって「働く」ことに向き合い、自らを成長させることで、それぞれの人生を経済的にも精神的にも豊かにできるような企業でありたいと考えています。

グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤健一



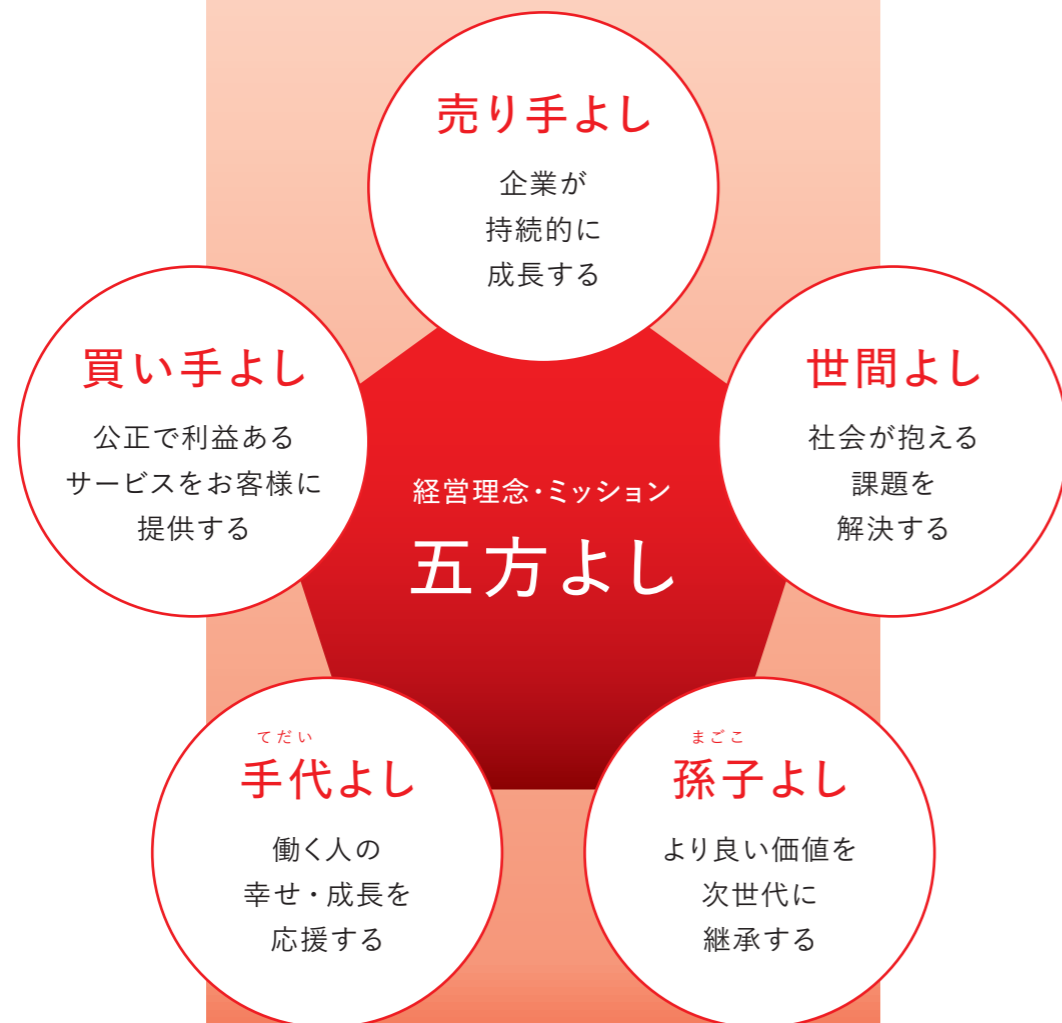
経営理念

「五方よし」の経営理念のもと 環境ビジネスを通して 未来の明るい社会を創ることをめざします。

私たちが掲げる経営理念「五方よし」は、近江商人が商売訓としていた「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の「三方よし」に、事業に従事する社員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感できる「手代よし」、未来の担い手である次世代への責任と持続可能な社会の構築に取り組む「孫子よし」を加えたものです。

地域の方々や取引先、行政機関、社員やその家族といったさまざまなステークホルダーとの関係を大切にしながら、常に時代の先を見据えて未来に向かって進化する。「いま、社会にとって何が大切なのか」「未来の社会のためにどのような事業を行うべきか」を常に意識し、社会課題に応じていくことが私たちの使命です。

グッドホールディングスグループの価値創造



行動指針

私たちの「行動指針」は、
進化し続ける姿勢を
育んでいます。

私たちが展開する環境ビジネスは社会の基盤を形成する重要なもの。地域社会との信頼関係を第一に、すべての従業員が凡事徹底を基本に確かな責任と誇りをもって仕事に取り組んでいます。だからこそ、その時代が必要としている新たなサービスを創り出すことが可能なのです。

1 責任とプライドを持って 仕事に取り組む

お客様から報酬をいただいている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2 自主性と協調性の バランスをとる

「今、自分が何をすべきか自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む

4 どんな状況にも適応する (適者生存≠弱肉強食)

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、習慣に囚われず、様々あるいは困難な状況でも適応する努力をし続ける

5 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人々の期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のためには適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

SDGsへの取り組み

私たちにとって
「事業を継続すること」が
SDGsへの貢献と考えます。

環境ビジネスに携わる私たちが見つめているのは社会の未来です。SDGs(持続可能な開発目標)をさらに明るく確かな未来をもたらすための過程と捉え、コーポレート・ガバナンス、人権・労働慣行、コミュニケーションの分野においてSDGsを踏まえた取り組みを行っています。



グッドホールディングスグループの取り組み

コーポレート・ガバナンス

- 組織統治
- 法令順守
- 情報開示・説明責任

環境における取り組み

- マテリアルバランス
- 活動の目標と実績
- 環境負荷低減の取り組み
- 環境パフォーマンスデータ

従業員とともに

- 活動の目標と実績
- 労働安全衛生の取り組み
- 人事に関する取り組み
- 安心して働ける環境づくり

地域社会とともに

- 活動の目標と実績
- お客様とのコミュニケーション
- 消費者課題の取り組み
- 苦情・事故

グッドホールディングスグループ概要


社会課題を捉え、応える力で、 未来の社会に貢献します。

私たちは、常にその時代の社会課題に向き合い、解決に尽力することで企業として進化をしてきました。

1960年に家庭ごみ収集事業からスタートした事業は、1970年代の産業廃棄物の不法投棄の社会問題化を受けて産業廃棄物処理事業に展開。2000年代には高齢化社会、食品ロスといった社会課題に取り組み、事業化を実現させてきました。

そして、2023年1月にはバイオガス発電プラントが竣工し、食品リサイクル事業がよいよ再生可能エネルギー事業へと展開しています。

私たちは「社会とともにある企業」として、これからも社会課題を捉え、応える力で未来の社会に貢献します。



グッドホールディングス
株式会社

所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号
代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一
設立：1960年 資本金：96百万円
従業員数：12名

事業内容
グループ財務・経理・人事・労務・
広報、経営支援および総合戦略の策定

連結売上高 **5,274百万円** ※1

※1 単位未満切り捨て（特に断りのない場合、以降も同様）

グループ従業員数 **350名** ※2

※2 従業員数は常用雇用者（社会保険負担をしている者：従業員兼務役員除く）の数

<p>株式会社リヴァックス</p> <p>産業廃棄物の収集運搬・中間処理 各種施設の清掃・管理</p>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 山本 英治 資本金：81百万円 従業員数：75名 売上高：2,426百万円</p>	<p>事業内容</p> <p>産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬 産業廃棄物の中間処理（破碎・乾燥） 飲料系商品のリサイクル 排水処理施設などの清掃・管理</p>
<p>株式会社リリーフ</p> <p>おかたづけサービス リユースサービス</p>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 知宣 資本金：50百万円 従業員数：55名 売上高：715百万円</p>	<p>事業内容</p> <p>おかたづけサービス （遺品整理、生前整理、残置物撤去） リユースサービス</p>
<p>株式会社ダイキョウクリーン</p> <p>グリストラップ清掃</p>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者名：代表取締役社長 津田 政房 資本金：80百万円 従業員数：42名 売上高：536百万円</p>	<p>事業内容</p> <p>グリストラップや排水管を含む 水回りの衛生維持管理サービス</p>
<p>株式会社大栄衛生</p> <p>西宮市のごみ収集事業</p>	<p>所在地：兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者名：代表取締役社長 赤澤 健一 資本金：10百万円 従業員数：74名 売上高：907百万円</p>	<p>事業内容</p> <p>一般廃棄物の収集運搬（西宮市） 産業廃棄物の収集運搬</p>
<p>株式会社大協</p> <p>伊丹市のごみ収集事業 人材派遣事業</p>	<p>所在地：兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号 代表者名：代表取締役社長 平井 里美 資本金：10百万円 従業員数：92名 売上高：702百万円</p>	<p>事業内容</p> <p>一般廃棄物の収集運搬（伊丹市） 産業廃棄物の収集運搬 人材派遣・人材紹介</p>

グッドホールディングスグループの歩みと社会の変遷

グッドホールディングスグループの歩み

1953 創業者が廃棄物回収業を創業

1968 有限会社大栄衛生を設立

1974 大栄サービス株式会社を設立（リヴァックス）

1976 有限会社大協工業所を設立

1984 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に設置（リヴァックス）

1999 同業他社との協調体制（アライアンス事業）構築（リヴァックス）

2002 CSR報告書（現サステナビリティレポート）発行スタート

2006 産業廃棄物の破碎施設をリニューアル（リヴァックス）
大協工業所を株式会社に改組および大協に商号変更
計量器付き収集車両の導入（大栄衛生・大協）

2007 有機性産業廃棄物の乾燥処理施設が完成（リヴァックス）
同時にバイオマス燃料化事業を開始

2008 廃棄飲料系商品のリサイクル事業のため、リバースマネジメントセンターを新設（リヴァックス）
甲山農地プロジェクト（現こども農業塾）を開始
JICA研修の受入れを開始
関西大学第一中学校の施設見学受入れを開始（リヴァックス）

2009 大栄サービスの社名をリヴァックスに変更

2010 グリストラップ清掃事業を開始（ダイキョウクリーン）

2011 おかたづけサービス事業を開始（リリーフ）

2013 海外リユース事業を開始（リリーフ）

2014 関東事業所を東京都足立区に開設（リリーフ）
swell事業を開始（リヴァックス）
バイオマスボイラーを新設（リヴァックス）

2015 チャイルドドリームへの寄付を開始
埼玉県三郷市に関東事業所を開設（リリーフ・ダイキョウクリーン）

2016 ホールディングス体制へ移行
五方よしの経営理念策定
リヴァックスホールディングスの社名をグッドホールディングスに変更

2017 グループとして東京都千代田区に東京オフィス開設
さくらチーム発足（大栄衛生）
人材派遣・人材紹介事業（G career）を開始（大協）

2018 愛知県名古屋市に名古屋事業所を開設（リリーフ）
人事制度見直し

2020 フードバンクへの寄付を開始（リヴァックス）

2022 神奈川県横浜市に京浜事業所を開設（ダイキョウクリーン）

2023 西宮バイオガス発電プラントが完成（リヴァックス）

1950—

1960年代 高度成長期

1970 「廃棄物処理法」改正により、一般廃棄物と産業廃棄物という概念が誕生

1980—

1980年代 バブル経済

1985頃～ 家庭ごみの排出量が急増し始める

1990 バブル崩壊

1995 「容器包装リサイクル法」制定

1997 「京都議定書」地球温暖化の原因となるCO₂などの削減率が定められる

2000—

2000 一人当たりの家庭ごみ（一般廃棄物）排出量が減少し始めるあらゆる廃棄物においてリデュース、リユース、リサイクルを主軸とした時代へ

2001 「廃棄物処理法」改正により、廃棄物処理のマニフェスト制度がさらに強化
コンプライアンスの遵守が重要視される時代へ

2007 「改正容器包装リサイクル法」完全施行により、さらに社会の「ごみの減量化」への意識が高まる

2010—

2010 「カンクン合意」にて、日本の温室効果ガス削減目標を「2020年度までに2005年度比で排出量を3.8%削減」とする
孤独死者数が急増し、社会問題化

2015 「パリ協定」にて、日本の2030年度の温室効果ガスの排出を2013年度の水準から26%削減することを目標とする
SDGs（持続可能な開発目標）が策定される

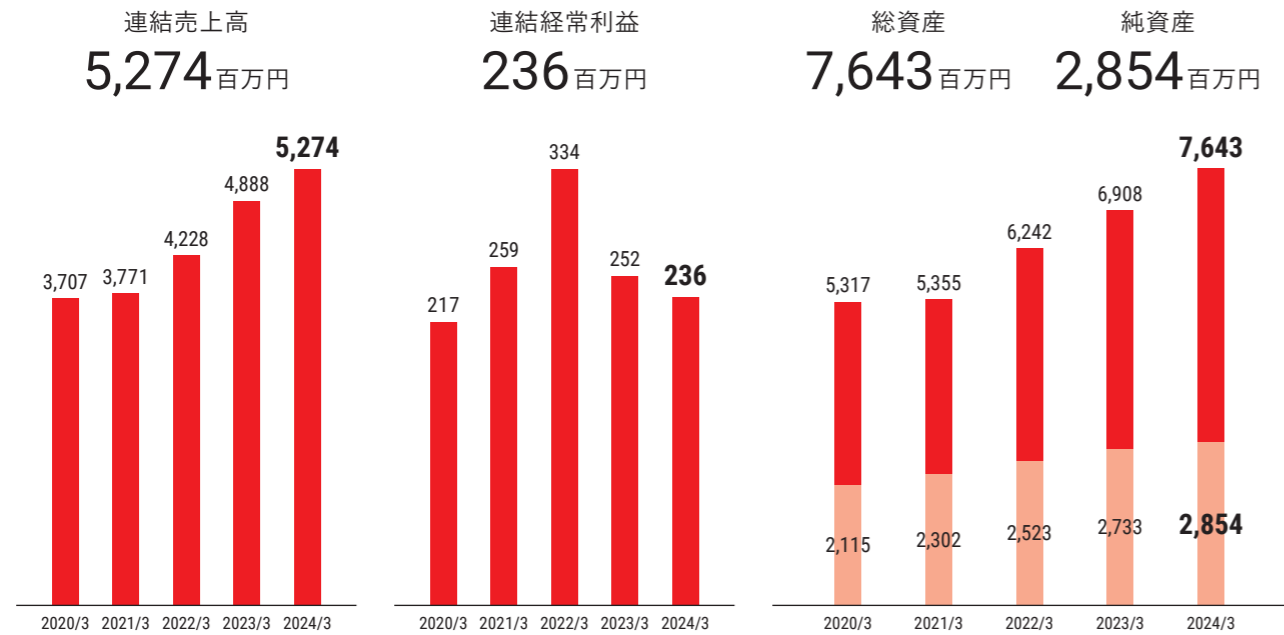
2018 食品ロスが社会問題に

2020—

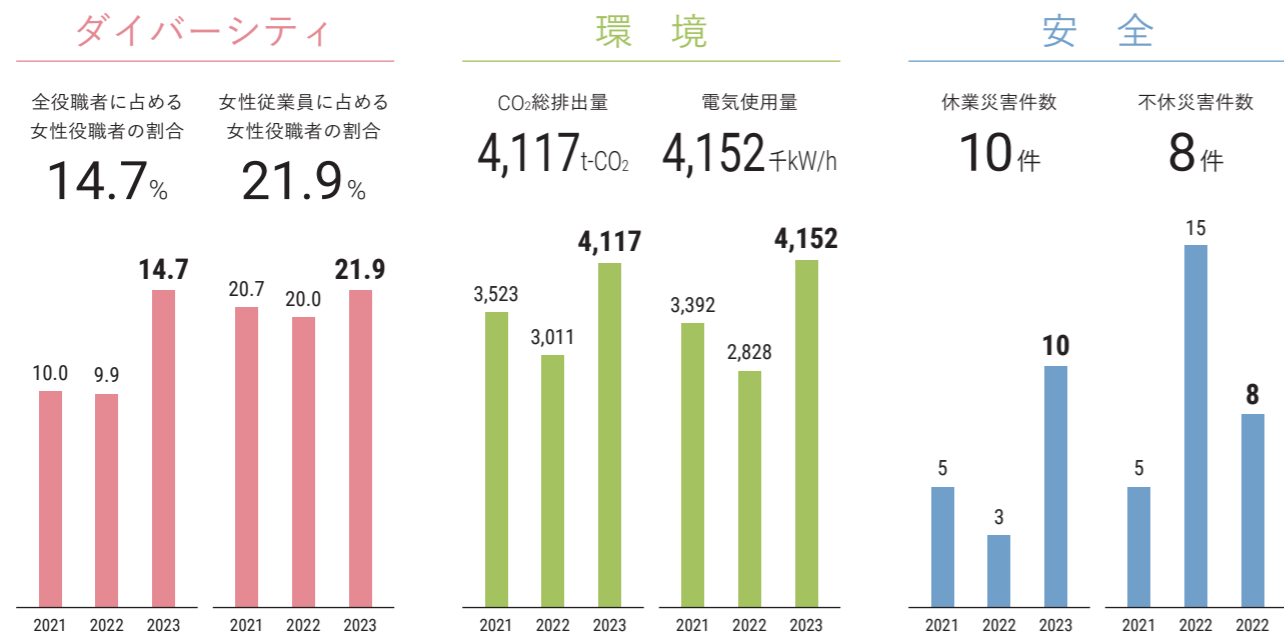
2020 菅総理所信表明演説で「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を宣言

2021 気候サミットにて日本の2030年度の温室効果ガス削減目標を「2013年度から46%削減」と宣言

財務情報



非財務情報



グッドホールディングスグループ 2023年度 トピックス

武庫川女子大学と包括連携協定を締結

2024年2月、武庫川女子大学とグッドホールディングスが、社会的・文化的資源の活用及び人的資源の交流を図り、幅広い分野で協力し、SDGsの推進、地域社会の発展、人材育成に寄与することを目的とし、包括連携協定を締結いたしました。



大阪市消防局と業務協定を締結

2023年10月26日、大阪市消防局とリヴァックスが業務協定を締結しました。

本協定は、土砂災害等、埋没事故が発生した際に、迅速な対応が行える体制づくりを目的としており、埋没事故が発生時に大阪市消防局から要請があれば、吸引車を出動し、土砂の吸引及び運搬の業務を実施する役割を担っています。



EcoVadis社「シルバーメダル」を獲得

リヴァックスは、EcoVadis社(エコパディス/本社:フランス)のサステナビリティ評価に本年度初めて取り組み、「シルバーメダル」の評価を獲得いたしました。

サステナビリティ評価は、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な調達」の4部門で包括的に行われ、「シルバーメダル」は全世界申請上位25%の水準に相当する企業が認定される評価です。

関西学院大学と協働で飛沫防止パネルリサイクルプロジェクトを実施

大栄衛生が関西学院大学の学生と学内で不要になった飛沫防止パネルを約950枚集め、分別の意義や工程を知ってもらうことでリサイクル意識の向上やSDGsへの関心を高めることを目的に実施しました。



セーリングチーム実業団全国大会出場

2023年7月に開催された関西実業団ヨット選手権で7連覇という快挙を成し遂げ、同年9月に佐賀県で開催された全日本実業団ヨット選手権大会に出場いたしました。



ひょうご・こうべ女性活躍推進企業(ミモザ企業)に認定

リリーフが、女性が活躍できる職場づくりやキャリア形成に積極的に取り組む企業として、2024年2月に「ひょうご・神戸女性活躍推進企業(ミモザ企業)」に認定されました。



ストレスフリーカンパニーに認定

グッドホールディングス、リリーフ、ダイキョウクリーンの合同安全衛生委員会が毎年実施しているストレスチェックにおいて、2023年度の結果がストレスフリーカンパニーとして認定されました。



鳴尾浜事業所にAEDを設置

社員を含め、近隣地域の事業所や住民の皆様の方々の事態に備えたいという思いから鳴尾浜事業所にAED(自動体外式除細動器)を設置しました。設置にあたり、事務所で社内講習を行い、使用方法や緊急時対応について学びました。



「エネルギーの地産地消」をめざす

西宮バイオガス発電プラント

PROJECT STORY



2023年1月、阪神間初の都市型商用バイオガス発電施設「西宮バイオガス発電プラント」が竣工しました。

「バイオガス発電」とは、食品工場などから排出される有機性廃棄物を原料にメタン発酵処理を行い、発生したバイオガスを燃料として用いる発電。

食品廃棄物の有効利用により資源循環型社会に貢献することはもちろん、

二酸化炭素の排出量を抑えられるカーボンニュートラルな発電方法としても注目されています。

児島毅取締役処理センター長に、プロジェクトのストーリーと

リヴァックスが描く再生可能エネルギーの未来について聞きました。

— 「西宮バイオガス発電プラント」がいよいよ本格稼働を始めました。プラント建設については、いつごろから構想されていたのでしょうか。

2015年、バイオガス発電事業を専業とする国内企業を赤澤代表と訪れ、当時まだ社会であまり知られていなかったバイオガス発電プラントの視察をしたのが最初です。当社の乾燥プラントができて8年目のタイミングで、次の展開への情報収集を行っていたタイミングでした。具体的にバイオガス発電プラント建設の検討を始めたのは翌年の2016年です。

— 児島センター長は、バイオガス発電について知識や経験はあったのですか。

私は2017年に処理センターの責任者に就任しましたが、大学では機械システム工学を専攻しており、バイオガス発電やその工程となるメタン発酵といった生物学的な知識はありませんで

した。しかし、「新しいプラントを一からつくる経験など人生でなかなかあることではない」と、ワクワクしましたね。まずは学ぶことから始めようと、プロジェクトメンバーと展示会を訪れて国内外のメーカーとつながったり、すでに稼働している国内のプラントや最先端の技術を持つドイツのメーカーを視察に訪れたりしました。

バイオガス発電について理解を深める中で、大阪工業大学の古崎康哲先生とご縁がありました。古崎先生は、バイオガス発電に必要なメタン発酵を専門的に研究されています。大阪工業大学は、当時、乾燥プラントで働いていた山内係長の出身大学でもあり、すぐに先生の研究室に訪問する機会をいただきました。その際、先生に自分達が考えていることについてのアドバイスをいただけたのはありがたかったです。大阪工業大学とは学術指導契約を結ばせていただき、産学連携で事業を進められたのは、当社としても学ぶことが多く、よい機会となりました。

— 「西宮バイオガス発電プラント」は、京阪神で最大規模の都市型プラントとのことですが、建設にあたって課題はありましたか。

酪農で出る家畜の糞尿などの廃棄物を発酵させてガスを作る北海道のメーカーやトウモロコシをエネルギー作物として使うドイツのバイオガス発電などを視察しましたが、いずれも広大な土地にあるイメージでした。当社の場合は、西宮市の鳴尾浜という都市型のプラントになります。臭気などの問題もありますし、特に安全対策、環境対策といった視点は強く持つておく必要性を感じました。都市部ならではの課題をしっかり把握して、都市部に合うプラントの建設をめざしました。

— メーカー決定まで2年かかったそうですが、設計に入ってからはずむに進みましたか。

2年で国内外15ほどのプラントを視察して、最終的にドイツのクリーク・アン

ド・フィッシャー社の技術を採用し、設計・施工は、シン・エナジー株式会社に協力してもらい進めることにしました。

プラントの設計を進めながら、同時進行でプラント建設の許認可とFIT制度の事業認定の取得を進めました。FIT制度とは、再生可能エネルギーで発電した電気を電力会社が一定期間固定価格で買い取ることを国が約束する制度です。

プラント建設について、近隣企業や自治会、地域住民に対して説明会を開催してご理解いただくことも重要なミッションでした。当時はバイオガス発電プラントについては知られておらず、類似施設もありません。事例を出しながら安全性や臭気対策について説明させていただきました。地域の方々に一番お伝えしたかったことは、「なぜひリヴァックスが、西宮のこの場所でバイオガス発電プラントを建て

るのか」ということです。「バイオガス発電プラントは再生可能エネルギーに貢献できるプラントである」ということ。そして、「郊外ではなく、近隣に食品工場があるこの場所に、食品廃棄物をエネルギーに変えるプラントをつくりたい」ということ。そんな当社の想いを、地域のみなさんに応援していただけたことは本当にありがたかったです。

プラント設置許可は2020年12月におりましたが、FITの事業認定の取得には予想以上に時間がかかりました。こればかりは当社でコントロールできることではないので待つしかありません。ようやくすべての許可がおりたのは2021年7月。いよいよ11月にプラント建設工事の着工に向けて動き出し、ようやくスタートラインに立てたという気持ちでした。そして、2年後の2023年1月に竣工、7月から本格稼働（売電）が始まりました。

— 本格稼働から一年が過ぎましたが、バイオガス発電プラントはどのような状況でしょうか。

構想から始まって、メーカーの決定、許認可の申請、設計、施工、そして稼働と、この8年間はずっと走り抜けてきましたが、まだ気の休まるタイミングはありません。バイオガス発電は、成分のばらつきがある廃棄物原料を微生物で発酵させるので、いかに状態安定させるかが一番の課題でした。その点は建設工事の期間を利用して負荷変動のシミュレーションを積み上げたこともあり概ね順調で、稼働率100%を維持しています。

この一年で最も大変だったのは、機械のトラブルです。海外から部品を仕入れているので故障すると取り寄せに時間がかかりリードタイムに大きく影響します。プラントを止めるわけにはいかないので、代替りの手段を自



児島毅
株式会社リヴァックス
取締役処理センター長
2002年4月入社



分たちで探すなどして、この一年で機械トラブルの対処についてはかなりノウハウを積み上げました。

また、バイオガス発電は、投入する廃棄物によってもガスの出具合が変わり、発電量に影響します。何が発電ガスに寄与する廃棄物なのか、今後も情報を精査、解析し、要因を突き止め、よりガスを出せるように改善していきたいです。

発酵残さとして発生する消化液の有効利用も、今後の課題です。現状、消化液は脱水した後、濾液は曝気処

理し公共下水道へ放流し、脱水ケーキは肥料原料として利用しますが、消化液のまま利用できれば無駄なエネルギーを使うことなく環境負荷の少ない利用が可能になります。

— リヴァックスが描く再生可能エネルギーの未来とは。これからの抱負を教えてください。

「電気の地産地消」として、西宮バイオガス発電に興味をもってくださっている人は多いと感じています。「地域で出た食品廃棄物でエネルギーを創り、地域で使う」という地域内の資源循環は、理論上はできることです。現在は、まだ発電量が少なく一般家庭でいうと1000世帯ほどの発電ですが、将来的には実現していきたいですね。蓄積したノウハウを同業者にも

還元して、エネルギーの地産地消が日本のあらゆる地域で展開されたらおもしろい社会になると思います。

また、「西宮バイオガス発電プラント」は、京阪神では最大規模の試みとなります。建設に際してご協力くださった地域の方々の期待に応えるためにも、食品リサイクルや再生可能エネルギーを身近に感じていただける施設として行政やNPO、教育機関、環境関連企業とさまざまな協業を行っていただければと思います。

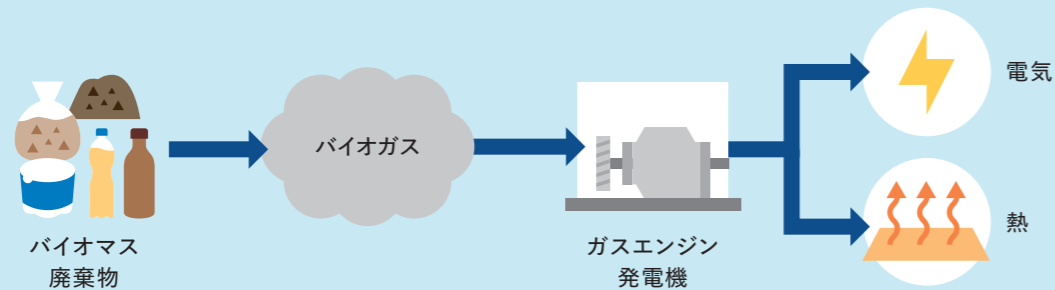


施設内に作った手作りのラゴで、日々実験を重ねている

バイオガス発電とは

家畜の糞尿や、食品由来の廃棄物等を原料として、メタン発酵を行い、発生したバイオガスを燃料にバイオガス専焼発電機で発電する方法です。リヴァックスでは、産業廃棄物である排水処理汚泥や、食品残さを原料にバイオガス発電を行い、発電した電気はFITを利用し売電を行います。

食品工場から排出される食品廃棄物はほとんどが飼料化や堆肥化によって再利用されていますが、近年では、CO₂削減や再生可能エネルギー利用としての需要の増加等の観点から食品廃棄物のバイオガス化が注目されています。



西宮バイオガス発電プラントの効果

年間 **1,800t** の
CO₂排出量削減

再生可能エネルギーを供給することで、同等電力量を化石燃料で生み出したときに比べ、年間1,800トンのCO₂排出量(温室効果ガス)が削減できる

約 **1,000** 世帯分の
再生エネルギー

西宮市、阪神エリアを中心とした食品由来の廃棄物をエネルギー源として活用し、約1,000世帯分の再生エネルギーを生み出す

バイオガス発電プラントで働くスタッフに聞きました!

STAFF INTERVIEW

仕事のやりがい

「自分たちで解決すること」が

日々起こる想定外をチームで解決

辰巳 信也

2022年9月入社

もともとリヴァックスの乾燥プラントで9年、仕事をしていました。その後、一度退職しましたが、バイオガス発電事業の立ち上げのタイミングで復職しました。

現在は、バイオガス発電プラントでメンバー5人とともに働いています。新規事業なので想定外のことは日々起こりますが、一番大切なのは発電を止めないこと。工程を止めるわけにはいかないので、機械の故障などのトラブルには迅速な対応が求められます。頭を悩ませながらもみんなで知恵を出し合い、ひとつひとつ解決していくことにやりがいを感じています。日々新しい知識をつけながら成長できるのもこの仕事の魅力です。

社会の環境への意識が高まる中、社会におけるバイオガス発電事業は重要な役割を担うことになると思います。効率的で環境にやさしいバイオガスシステムを日々めざして仕事をする中で、日本の再生可能エネルギーに貢献していきたいですね。

仕事の魅力

時代の最先端分野でキャリアアップ
自分の成長を実感できるのが

山内 啓太

2012年4月入社

私は新卒でリヴァックスに入社しました。大学は、環境工学科で環境問題に対して勉強する学科でした。これからの大きな社会課題となる環境問題に携わる仕事がしたいと就職活動をする中で、リヴァックスに出会ったのが入社のきっかけです。

以前は乾燥プラントで働いていましたが、バイオガス発電事業への異動は自身のキャリアアップとしてはとても魅力的でした。プラントの準備段階では母校である大阪工業大学の古崎先生の研究室で月1回実験分析のしかたを教えていただくなど、社会人になっての学びは新鮮でした。メタン発酵の技術は昔からありますが、まだまだ成長途中の分野です。自社にプラントがあるというのはとても恵まれた環境だと思うので、しっかり日々データをとって分析し、この分野での知識と経験、ノウハウを積み上げていきたいです。そして将来、新しい形で社会や地球環境に還元していければと思っています。



会社概要

資本金:81百万円
従業員:75名

代表取締役社長
山本 英治

株式会社リヴァックス

産業廃棄物の収集運搬・中間処理 各種施設の清掃・管理

「循環型社会」の実現をめざして産業廃棄物の可能性を追求する

考え方

株式会社リヴァックスは、「産業廃棄物のリサイクルを構築すること」で資源循環化をめざしています。ごみの削減は社会的な課題であり、私たちの使命です。私たちは、リサイクルが難しい難処理廃棄物においても創意工夫と技術力で諦めることなく挑戦し、社会に資源として還元したいと考えています。また、法令遵守と透明性を重視した経営を通じて、ステークホルダーの方々の信頼に応え、より質の高いリサイクルフローを時代に先駆けて創出することを使命として事業を行なっております。

来期にむけて

2023年1月に「西宮バイオガス発電プラント」が竣工、7月からは正式に電気の販売が始まり、バイオガス発電事業が計画通りにスタートを切ることができました。廃棄物から電気をつくるという取り組みは、阪神間では当社が初めての試みとなります。

当社は産業廃棄物のリサイクルを使命としておりますが、有機性廃棄物を社会に役立つ形で資源循環させていく上でメタン発酵という処理は欠かせません。この度、バイオガス発電プラントを社内に持ったことでその分野のデータ蓄積や分析が可能となりました。食品系の廃棄物から電気を創り、残った残さを肥料として資源循環させる将来の地域モデルとなるよう尽力してまいります。

有機性廃棄物のバイオマス資源化事業における乾燥プラントも大規模修繕を実施し、3月よりリニューアルしております。また、2015年にスタートしたswell事業はこれまでに多くの実績を積み上げ、高い技術力と提案力で顧客ニーズに応え、成長を続けています。

社内組織においては、採用を含め、この先5年、10年を見越した体制づくりに着手しております。今期はまさに企業としてセカンドステージに入る最初の一年になると考えております。

リヴァックスの事業

産業廃棄物の総合リサイクル事業

「有機性廃棄物のバイオマス資源化事業」「食品リサイクル事業」「アライアンスネットワーク事業」、そして今期から新たに「再生可能エネルギー事業」を加えた4つの事業で、あらゆる産業廃棄物のリサイクルと資源循環化に取り組んでおります。

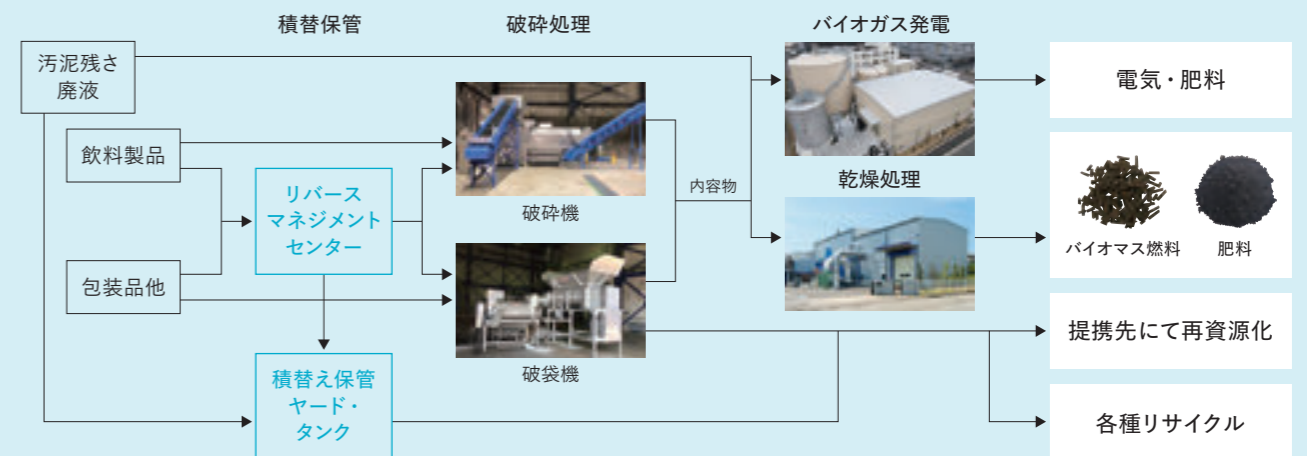
有機性廃棄物のバイオマス資源化事業

事業所から排出される活性汚泥や動植物性残さの有機性廃棄物については、自社プラントで乾燥処理を行い、バイオマス燃料や肥料といったバイオマス資源へと100%リサイクルを実現しています。

二酸化炭素排出を大幅削減するバイオマスボイラー

2016年よりリサイクル施設にバイオマス燃料を導入、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換しております。従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、導入前より年間二酸化炭素排出量を62%削減することができました。

リヴァックスのリサイクルシステム



食品リサイクル事業

期限切れや製造ロスによって生じた飲料製品や梱包された食品系産業廃棄物を、破砕処理と乾燥処理によりバイオマス資源へとリサイクルします。飲料系廃棄商品は、容器と内容物の100%リサイクルを実現しています。RMC(リバースマネジメントセンター)では製品状態の廃棄物を安全に保管することができ、大量の廃棄物にも対応しています。

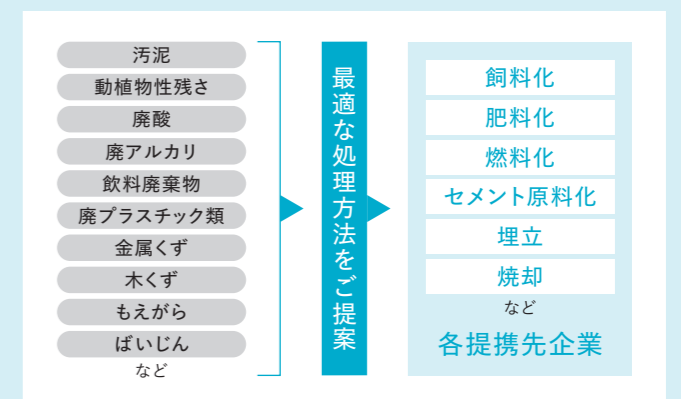
再生可能エネルギー事業

食品ロス等から再生可能エネルギーを創る、京阪神エリアで最大級の「西宮バイオガス発電プラント」が2023年1月に竣工しました。食品工場から排出される食品廃棄物はほとんどが飼料化や堆肥化によって再利用されていますが、近年では、CO₂削減や再生可能エネルギー利用としての需要の増加などの観点から食品廃棄物のバイオガス化が注目されています。リヴァックスでは、産業廃棄物である排水処理汚泥や、食品残さを原料にバイオガス発電を行い、発電した電気はFITを利用し売電を行います。



アライアンスネットワーク事業

産業廃棄物は業者によって扱う廃棄物が異なりますが、当社では長年培ってきたノウハウと提携業者などのネットワークを担って、薬品、廃材などあらゆる廃棄物の処理・リサイクルのニーズにワンストップで対応しております。



設備清掃事業

工場内インフラに特化したswell事業

swell事業は、「廃棄物処理だけでなく工場の清掃までトータルに依頼したい」という顧客ニーズから生まれた事業です。工場の排水処理施設や配管、タンクといった工場内設備に特化した清掃サービスを提供しています。顧客ニーズの中でも「特に技術的に難しく未だ実現されていない課題」に対して高機能な吸引車と洗浄車の技術力でお応えすること、そして顧客の現場に合ったより良い清掃サービスを企画提案し、「コスト面、効率面での改善に貢献すること」を強みに事業展開しています。技術力と提案力で、工場の環境インフラの機能維持に貢献します。

超強力吸引車であらゆる清掃を可能に

国内最大級の超強力吸引車など特殊車両を保有しており、その圧倒的な性能で清掃作業時間の短縮や作業内容の改善を実現しています。「深い地下からの吸引」「レンガ屑など大きな塊の吸引」などこれまで不可能であった作業が可能になり、あらゆる現場のニーズにお応えします。



マルチ吸引車で低コスト・短納期を実現

マルチ吸引車は、粉体専用の特殊車両です。これまで複数台で対応していた、粉体の「吸引・圧送」「容器詰め」「粉体輸送」といった3つの作業を車両一台で行うことができる、まさに一台三役の車両です。吸引した粉体は再利用や破棄も可能で、作業の手間と時間を大きく削減します。



「提案×高いサービス品質×法令遵守」で安心のサポートシステムを構築

1 提案

顧客（製造工場・プラント工場・排水系作業現場）に低コスト・工程短縮などを提案

2 作業

他では困難な作業（高揚程・高比重）を含め、排水処理施設や配管、側溝などの堆積物の清掃を吸引車と高圧洗浄車でサポート（設備の機能回復）

3 アフターサポート

清掃時に回収した産業廃棄物処理を適正に行い、法令に基づいた産業廃棄物管理表（マニフェスト）の返却、次回作業の提案

STAFF INTERVIEW



村田 健次郎
主任
2016年12月入社

現場をよくしないといいものが生まれない。 ものづくりのための環境と安全に貢献する仕事

swell事業は、鉄業界、パルプ・紙業界、焼却場、化学工場、油工場などがクライアントです。これまで工場内で物理的に難しかった場所の清掃を当社の超強力吸引車を使うことで可能にします。それにより、リードタイムや費用の改善だけでなく、事故につながりかねない廃棄物の漏洩などを事前に対策することもできます。

私は2016年にswell事業の初期メンバーとして入社し、事業のスタート期から成長をともにしてきましたが、超強力吸引車が他社にない強力な武器となっていること、また産業廃棄物の処理と工場の清掃が両方できることも当社の大きな強みとなっており、swell事業は年々拡大を続けています。現在、関西地方を中心に、中四国地方までシェアを広げており、3年以内に全国展開、5年以内に海外展開をめざしています。

私は学生のときに化学が好きで、化学は研究が重要なのもちろんですが、「現場をよくしないといいものが生まれてこない」という問題意識を持っていました。また、工場内設備の管理は、災害時などの事故防止においてとても重要です。この仕事を通して、日本の化学の技術発展とその安全を支えていきたいです。

環境負荷低減の取り組み

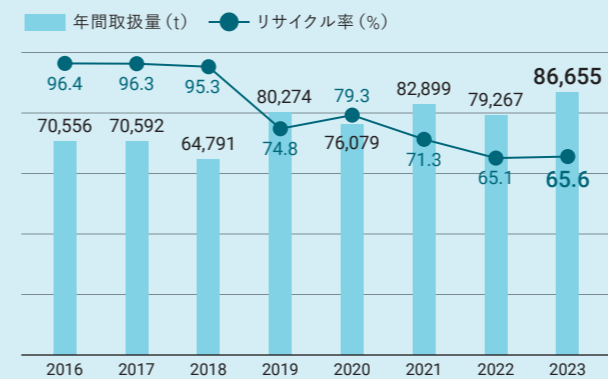
産業廃棄物のリサイクル率

より質の高いリサイクルをめざしています

2023年度のリサイクル率は65.6%でした。引き続き、お客様のリサイクルニーズへの対応、循環型社会の実現、埋め立て処分地の延命に貢献してまいります。

※リサイクル率は年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表します。
※2018年度まではサーマルリサイクル（焼却）をリサイクル扱いとしていましたが、2019年度よりリサイクルカウントから除外しています。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



リヴァックスの対応可能な廃棄物処理

汚泥・残さ・廃液の乾燥処理	阪神間最大級のリサイクルプラント	▶ 100t/日
	安定した稼働実績	▶ 36,000t/年
食品などの容器包装の破碎処理	1日の処理量	▶ 43t/日(内容量含む)
	多種類の許可	▶ 3種
	・廃プラスチック類・金属くず ・ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず	
廃棄飲料の処理	飲料処理実績 日本最大クラス	▶ 8,000t/年
	保有容量	▶ 585m ³ 食品リサイクル法に対応

悪臭防止対策

各種対策で、規制値を厳守しています

破碎・積替保管棟には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付け、廃棄物の搬入出以外は閉鎖しています。乾燥施設から発生する高濃度臭気はバイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭を行い、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置しています。西宮市との環境保全協定に基づく臭気測定の結果は、2023年度もすべて規制値内でした。(P20参照)

水質汚濁防止対策

定期的に水質を分析、適正管理しています

廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を排水処理施設で処理した後下水道へ放流しています。連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然防止に努めています。(P20参照)

廃棄物の漏洩・流出防止対策

漏洩・流出防止を徹底しています

リバースマネジメントセンターでは、容器入り廃棄物の荷崩れや開梱作業などで飲料がこぼれた場合でも漏洩しないよう、倉庫外周に側溝および8m²の溜め枡を設けています。さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には漏洩防止のためゴムパッキン付き水密コンテナを使用しています。

処理センターのエネルギー使用量

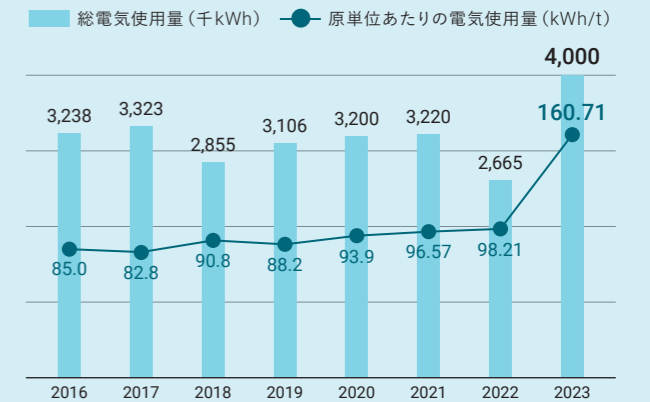
省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター（破碎・乾燥・メタン発酵施設）では、電気・都市ガスのエネルギーを使用しています。

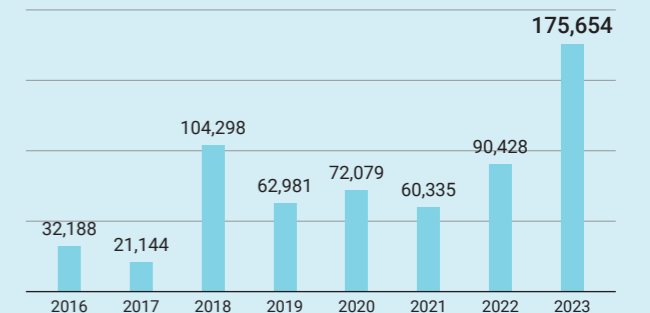
今年度はメタン発酵施設の本格稼働が開始したことにより電気使用量が増加いたしました。2023年7月～2024年3月に同プラントで使用した電力はすべてトラッキング付非化石証書の導入によりCO₂排出量ゼロを実現しております。

今後もプラント安定稼働を維持しながらエネルギーの削減に努めてまいります。

処理センターの電気使用量



処理センターの都市ガス使用量 (m³)





会社概要

資本金:50百万円
従業員:55名

代表取締役社長
赤澤 知宣

株式会社リリーフ **おかたづけサービス** **リユースサービス**

「おかたづけ」と「リユース」で
「不用品をごみにしない」ビジネスを展開

考え方

株式会社リリーフは2011年、グループ理念(五方よし)のもと、社員の新しい活躍の場として「社会課題にビジネスで取り組む企業」として創業しました。遺品・生前整理、孤独死・ゴミ屋敷原状回復、不用品撤去などを行う「おかたづけ事業」と、おかたづけ事業での回収および、提携先から引き取った不用品を国内外でリユース・リサイクルを行う「リユース事業」を展開しています。リユースを軸として、当社が片付けを行うことでごみの発生が抑制される仕組みとなっており、この仕組みを高めていくことで循環社会へ貢献します。

来期にむけて

今期のテーマは「リリーフをつくる」でした。当社はこれまで社員それぞれが主体的に会社を創っていく姿勢を明示してきましたが、その姿勢をさらに明確に推進していくために、昨年よりさまざまな研修制度の導入や、従業員のさらなる働きやすさを模索しております。その結果、ひょうご産業SDGs推進宣言の登録やミモザ企業認定を取得いたしました。

また、部門間コミュニケーションの活性化をめざす「JOBチェンジ」は、部署異動の希望者を社内公募し、面接の上、新しい分野でのチャレンジを支援するというものです。社員のキャリアの幅を広げるとともに、他部署とのコミュニケーションを通して互いの仕事を理解し合う機会にもなり、会社としての生産性向上にも貢献しています。

さらに、昨年度より社員総会で表彰する「社内表彰」も行なっています。全社員の投票によって選ばれる「かがやき賞」は、これまでの評価基準でははかることができない見えない努力や気配りが評価される機会となり、組織全体の団結力やモチベーションアップに貢献しています。

来期は、「人」を中心に据えた組織基盤づくりにフォーカスする一方で、商圏の拡大もめざしております。「おかたづけ事業」においては、新規エリア開拓とそれに伴うフランチャイズ展開、「リユース事業」も、関東への展開や他社との連携や協定なども含め、進めていきます。当社の「安心できるサービス」を全国に広げることで、その先は「資源循環」につながることをイメージし、ビジネスを展開していきたいと考えています。

リリーフの事業

おかたづけ事業

お客様とコミュニケーションを密にし、様々なオプション作業にも対応できる体制を作ることで、安心してご利用いただけるよう配慮したサービス体制を構築しています。2024年3月末時点では、1年で6,100件超のお家を整理しました。

当社の「おかたづけ」は、単にモノを「処分する」のではなく、専門知識を持つスタッフがごみと資源に分別し、ごみを減らすことで環境負荷の軽減につながります。また、「おかたづけ」で回収した不用品を処分ではなくリユースするという大きな特徴です。お客様にとっては大事な家財をリユースすることで心の負担が減るだけでなく、処分にかかる金銭的負担も20%~40%軽減につながっており、リユース比率向上も重要なテーマと捉えています。

全国にフランチャイズ展開

西宮市をはじめ東京の2拠点を中心に事業を行っており、2024年3月末時点で全国20店舗を展開しています。

法人のお客様との連携も強化

自社にてコールセンターの設置および、法人専用の担当を設置し、提携先様とスムーズな連携が行えるよう体制を整えています。管理体制を整えガバナンス強化に努めることで提携数は延べ500社を超えます。

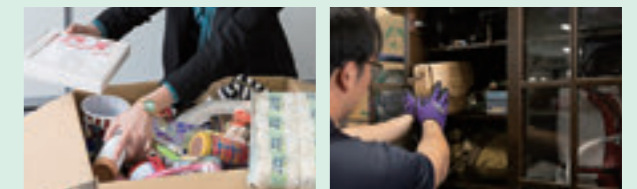
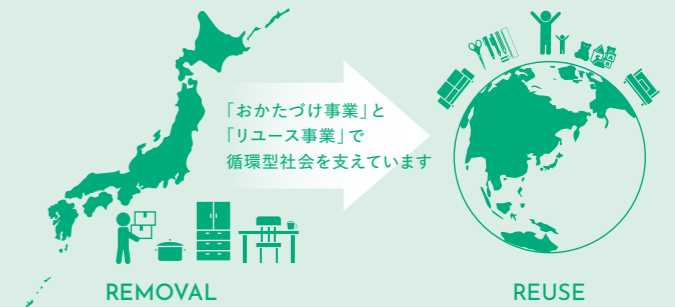


リユース事業

まだ使うことができる不用品を再利用する仕組みとして「おかたづけ事業」と両輪で取り組んでいるのが「リユース事業」です。

アジアでは日本の中古品が「Used in Japan」として人気があります。当社は、自社で倉庫機能、営業機能を持っており、環境変化にもすぐ対応できる体制が強みです。どこでどんなものが求められているのかを把握した上で「不用品なものを求められる場所へ」きちんと仕分けし、輸出をしています。

現在、東南アジアを中心に年間160本程度コンテナを届けており、約1,400トン程の廃棄物量削減につながっています。リユース事業の仕組みは循環型社会への貢献となり、私たちの経営理念でもある「五方よし」を体現したビジネスモデルを構築しています。



STAFF INTERVIEW



高島 久俊

社長賞
リユース事業 リユース課 課長
2022年9月入社

社内の常識を超えた発想で、業務効率化の仕組みを提案

2022年9月に入社し、単身赴任で東京の関東事業所へ移り、業務部の課長の任務に就きました。最初に私が行ったのは利益を生む「仕組みづくり」です。それまで当社では見積もりから作業までひとりのスタッフがこなしていましたが、分業にすることで効率を上げ、利益率の向上につながるよう仕組み化したのです。結果的に半年で利益を約10%改善することができました。利益が上がっただけでなく、組織としてみんなで「変化を恐れず挑めば、結果は変わる」という成功体験ができたことも大きな収穫だったと思います。

今回、社長賞を受賞しましたが、私が手掛けた仕組みは、社員の協力がなければ機能しなかったと思います。「会社やサービスを良くしていこう」という社員のまじめな気質とフラットな視点こそが、リリーフの強みです。協力してくれた社員みなさんに感謝しています。

全社員の投票で決まる、「かがやき賞」を受賞

この仕事の面白さは、同時進行で常に4、5件抱える業務の効率を「考えてこなす」というところにあります。また、これまでお金をかけて処分していたものをリサイクルできる業者を探して利益に貢献するなど、社内で新しい提案をして実現できるのも、仕事のやりがいです。今、個人的に取り組んでいるのは産業廃棄物関連の法律の勉強です。主任が専門知識を得ることで現場スタッフのスキルレベルも上がると思い、講習やセミナーに参加しています。

この度、全社員の投票による「かがやき賞」をいただきました。私は、会社で毎日一番朝早く出社しています。単純にミスをしたくないので準備に時間をかけているのですが、「みんな見てくれているんだ」と感じ、嬉しかったです。

将来は、新規事業を立ち上げて社長になって定年まで勤め上げたいです。以前、赤澤社長に事業アイデアを話したことがあるのですが、「新規事業を立ち上げたいなら、事業アイデアを月30ぐらい出そう!」とアドバイスをいただいたので、チャレンジしたいです。



山田 祐輔

かがやき賞
おかたづけ事業 関西事業所 主任
2018年9月入社



会社概要

資本金:80百万円
従業員:42名

代表取締役社長
津田 政房

株式会社ダイキョウクリーン グリストラップ清掃

ビルや施設の環境管理を担うファシリティマネジメントの領域へ

考え方

当社は業務用厨房に設置されているグリストラップ（油脂分離阻集器）清掃、ビルや施設の排水管、貯水槽など水回りの衛生維持管理サービスを行っています。関西と関東を拠点に、広域でのサービスを提供しており、全国展開のチェーン店にもワンストップで対応できる体制を整えています。近年は、これまでの経験と実績を活かし、ビルや大型施設の環境を総合的に管理するファシリティマネジメントの領域へと進出。地球環境負荷の低減と衛生保全に貢献していきたいと考えています。

来期にむけて

会社設立から8年が経ちました。当社は業界トップレベルの作業実績を誇っており、豊富な実績により積み上げられた当社現場スタッフの技術力は大きな強みとなっています。また、関東と関西に拠点をもち「広域エリア対応」が可能であること、施設に応じたコンプライアンス遵守の徹底という点から、近年はショッピングモールなどの大型商業施設からのご依頼が増えています。

当社はかねてより「ビルや大型施設の環境を総合的に管理するファシリティマネジメント企業」をめざしていますが、昨年度は関東・関西で大型商業施設の専門チームを立ち上げるなど、今期は会社として大きく成長の一步を踏み出した一年でした。

また、近年は大手企業を中心に SDGs への取り組みが一般的になっており、私たちの業界においても廃棄物について気にされるクライアントが増えています。当社は、循環型社会をめざす姿勢を持つグループ会社として、SDGs への関心が高い企業に選ばれる存在でありたいと思っています。

若手を中心に人材も育ち、組織基盤が整いました。今後も社員のパワーを活かして「三年同じことはしない」をモットーに顧客ニーズを発掘し、より求められる分野を見極め、挑戦を続けていきたいと考えています。

ダイキョウクリーンの事業

グリストラップ清掃

グリストラップとは、業務用の厨房から出た汚水の中から野菜くずや残飯を金網状のバスケットで集め、グリース（油）が下水に流出するのをトラップする（止める）装置です。グリストラップの汚れを定期的に取り除くことで、悪臭や害虫の発生の防止、衛生環境の改善や水質汚染の防止、排出される汚泥の低減に貢献します。



排水管清掃・詰まり解消

排水管の詰まりは、近隣施設への被害や営業のストップ、損害賠償などさまざまなリスクを引き起こします。専用の高圧洗浄車やポータブル洗浄機を保有し、定期清掃や万が一の際の排水管の清掃にも対応しています。

貯水槽・排水槽清掃

ビル、商業施設の貯水槽や地下、工場等に設置されている各排水槽（雨水槽、湧水槽、雑排水槽）の清掃や汚泥（産業廃棄物）の処理を承っております。有資格者による作業を行い、安全の確認・維持を徹底しています。

施設の衛生管理

ビル、商業設備などのダクト清掃、店内清掃、床洗浄、空調清掃など、施設の衛生管理を総合的にを行っています。大型施設にも対応しており、定期的なメンテナンスで施設の維持に貢献し、効率的な施設経営をご提案します。

ダイキョウクリーンの5つの強み

- 1 **大型複合施設の高層階や地下階にも対応**
対応が難しいビルや大型複合施設等にも対応。高圧洗浄車をはじめ、各種バキューム車、ポータブル洗浄機材などを揃え、お客様の要望にきめ細かく応えます。
- 2 **全国規模のチェーン店にもワンストップで対応**
全国にサービスエリアを拡大。関西・関東を拠点にサービス提供地域は計14都道府県。複数店舗を持つ企業や全国展開の大手チェーン店にも窓口ひとつで対応、情報を一元管理し、業務の効率化にも貢献しています。
- 3 **「クレーム件数ゼロ」を追求**
清掃を手がける従業員はすべて社内研修を受けており、清掃器具の搬入から清掃、マニフェスト伝票の発行、搬出にいたるまで、凡事徹底のもと丁寧な仕事を心がけています。
- 4 **法令順守による適正処理の徹底**
清掃時に回収した油や食品残さは産業廃棄物としてすべて適正に処理し、業務完了後にそれを証明するマニフェスト伝票を発行しています。
- 5 **年間作業実績2万件以上**
豊富な実績で積み上げた技術力とノウハウで、あらゆる施設のニーズに対応。グリストラップ清掃はもちろん、大型ショッピングモール、空港、病院などの排水管や貯水槽の清掃、補修などサービスも拡大しています。

STAFF INTERVIEW



小川 研一
係長
2021年5月入社

前職で培った安全管理の知見で、現場の保守安全に貢献

前職は、大手鉄道関係で15年、線路の保全の仕事をしていました。「現場の安全を守る」点では共通していますが、「決められたルールに従って動く」環境から「自分たちでルールを作っていく」環境に転職し、それまでの自分の考え方が刷新されました。まず感じたのは、ダイキョウクリーンはルールだけでなく「社員同士や顧客との信頼関係により現場の安全が守られていること」です。普段のコミュニケーションがしっかりと安全面にも活かされています。大手企業では、時にルールに縛られてしまう場面もありましたが、「本当の意味でルールが活きる組織とはどんなものか」を考える機会になりました。

1年半前に部長に「小川が思っている改善点を教えて欲しい」と言われました。思いつく限りを書いてリストにすると「それを全部やろう!」と受け入れてもらえ、今、取り組んでいるところです。これまでも大きな事故なくやってこれているので、私が厳しい意見を出すことが「負担を増やすだけなのでは」と思うこともあります。その迷いや不安も会議で共有し、話し合うことができている。前職で培った安全管理の視点を共有することで、ダイキョウクリーンの現場の保守安全の向上に貢献できればと思います。

顧客ニーズを満たしつつ、環境も考えた提案をしていきたい

以前は人材派遣会社で営業の仕事をしていましたが、将来的な不安を感じ転職を考えていたところ、ダイキョウクリーンの事を知り、「社会問題に取り組む企業」であることに興味を持ち、転職を決めました。現在、新規営業開拓をしています。

お仕事をいただくために、お客様の目線に立って、ニーズに合った提案を意識しています。自社の強みや機会を鑑みて提案につなげるところにおもしろさを感じています。

最近では、大型施設の受注もいただけるようになりました。ひとつの施設で何十基もグリストラップがあるので移動なく作業ができ、生産性が上がるのはもちろんですが、移動がない分CO₂を削減でき、環境にも貢献します。大型案件は会社の利益のためにも地球環境のためにも、今後積極的に狙ってきたい市場です。

ダイキョウクリーンは他部署との関りが多く、チームで仕事をしている実感があります。そのような環境にとっても居心地の良さを感じています。今後は、職場環境や組織づくりにかかわっていきたくです。さまざまな課題解決に向け、これまでの経験を活かしながら率先して取り組んでいきたいと考えています。



上原 拓也
主任
2023年12月入社



会社概要

資本金:10百万円
従業員:74名

代表取締役社長
赤澤 健一

株式会社大栄衛生

西宮市のごみ収集事業

自らの事業を「市民サービス」と捉え、地域社会に貢献します

考え方

株式会社大栄衛生は西宮市で家庭ごみの委託収集のほか、一般廃棄物収集運搬の許可を受けた適正業者として、家庭ごみ・事業ごみの収集運搬や粗大ごみの回収業務を手がけています。創業以来、顧客と地球環境を第一に考え、環境負荷を低減する処理方法やごみの減量をテーマに事業を展開してきました。私たちは自らの事業を「地域の人々の快適な暮らしを支えるサービス業」と捉え、よりよいサービスの提供をめざすと同時に、社会基盤を支え、地域社会に貢献できる企業でありたいと考えています。

来期にむけて

当社の事業は「人」が中心の事業であることに立ち返り、組織基盤を大きく見直し、管理のマネジメント体制を新しく構築いたしました。社員も増員し、より組織としてレベルアップできたのではないかと思います。

引き続き「人」を中心とした組織体制を意識しつつ、DXにも取り組んでまいります。私たちエッセンシャルワーカーの仕事は社会において今後も重要性が高まりますが、一方で人材不足という課題も抱えております。その解決策のひとつとして、車両管理システムやクラウド上で車両に関する情報を一括管理するスマートドライブといった「仕組み」を導入することで、働きやすい環境づくりをめざします。

また、若手人材の成長とともに会社としても活躍の場を提供する必要があります。「人の成長と事業の成長をどう繋げられるか」を考え、事業展開によるさまざまなチャレンジを通して今後の可能性を探っていく考えです。

大栄衛生の事業

廃棄物収集運搬事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物の収集運搬

日々、西宮市内の各事業所から排出される一般廃棄物の回収をしています。回収した一般廃棄物は西宮市の処理施設に搬入し適正処理を行っています。

産業廃棄物収集運搬

あらゆる産業廃棄物を迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬します。業務の効率化を図るため、電子マニフェストを導入。多彩な車両や専用コンテナでニーズにお応えします。

個人向けサービス

粗大ごみの回収

玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、引越時などに発生する大量の不用品を一気に処分したいというニーズにお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

西宮市の家庭ごみの収集運搬を行っています。この事業を「市民サービス」と捉え、地域に根ざしたサービスで社会に貢献したいと考えています。

取り組み

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」

ごみを積み込むだけで重量が計測できるスケールパッカー車と、ごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入。ごみ収集量を「見える化」し、収集量に応じて料金を課す「従量課金制」で、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の経費削減に貢献します。

BCP（事業継続計画）の策定と実行

近年の自然災害や新型コロナウイルス感染拡大など、サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

西宮市内小学校でのごみと資源についての「出前授業」

西宮市内の小学校で出前授業を行っています。実際にパッカー車の実物を身近に見てもらい、機能の説明やごみ袋の投げ入れ体験を行うことで、家庭ごみの出し方・分け方のマナー、リサイクルや環境問題等についての興味を深め、学びの機会を提供しています。



STAFF INTERVIEW



安達 由佳

管理部
2022年9月入社

「ミスは仕組みで防ぐ」恵まれた環境で仕事に注力

以前は接客業をしていましたが、この先長く働くことを考え、「最後の転職」と決めて未経験で事務職に挑戦しました。最初はわからないことばかりでしたが、上司や同僚に助けてもらいながら、仕事を身につけることができました。

現在の主な仕事は、お客様に請求書を出す仕事です。ミスをするとうるさくだけでなく、お客様との信頼関係に影響するため責任重大です。以前ミスをした時、「原因は何か」を上司が考えてくれて、その結果ダブルチェック体制になり、会社としてミスを防ぐ仕組みを作ってもらえたことに感謝しました。恵まれた環境で仕事に注力することができています。毎月同じ作業でも、お金を管理するのは大変なこと。きちんと成し遂げたときには大きなやりがいを感じます。

産業廃棄物の専門家として知識を極める。資格試験にも挑戦

廃棄物の世界に18歳から14年ありますが、この世界はまだまだ面白く、学ぶことも覚えることもたくさんあります。

主任職へ昇進した際、一緒に主任になった同僚とともに、社長に「2030年の二人!」と言ってもらったのがとても嬉しかったです。次を担うリーダーとして期待してもらっているようで、自分の中では励みになり、働く意欲になりました。そして産業廃棄物についてもっと勉強したいという気持ちも湧いてきて、先日「運行管理」という国家試験に受かり、より勉強が面白くなってきたところです。学生時代は全く勉強しなかった自分ですが、次は「産業廃棄物適正検査」に挑戦したいと思っています。3級から1級まであるのですが、お客様に何を聞かれても答えられる廃棄物の専門家になりたいですし、1級を狙います。

2年後には西宮では紙の分別も始まります。この業界は時代とともに環境が変化するのでついていくのが大変ですし、廃棄物の素材によっても処分の仕方がさまざま。知識も経験もいくらあっても足りませんが、常に自分を成長させつつ、楽しんで仕事を続けていきたいです。



瀬戸口 剛

環境事業部 主任
2021年6月入社

この一年で、組織基盤が強固に。今後は人材育成をめざす

19歳でアルバイトとして入社しました。事業系ごみと家庭ごみと両方の事業部を経験しています。事業系ごみの回収は、「顧客満足度を向上させつつ、少人数で安全にどれだけこなせるか」効率を意識して利益を上げていくのが仕事の醍醐味。家庭ごみの回収では、市民サービスや労働安全への意識が身についたと思います。

この1年で、会社は大きく体制が変わりました。管理者の人数が増えたことで、組織として余裕が生まれたと思います。社員のコミュニケーションの機会が増え、安全対策やコースの見直しについて意見を出し合い、解決案が議論できるようになりました。みんなが課題を「自分ごと」と捉え、社員が同じ方向を向いて仕事を進められるようになったと思います。

組織基盤は整ったので、今後は人材育成にも力を入れていきたいです。環境事業部、委託事業部の両方の経験と知識のある人材を増やし、会社としてさらなるレベルアップをめざしたいです。



大津 博伸

委託事業部(家庭ごみ) 課長
1999年11月入社



会社概要

資本金:10百万円
従業員:92名

代表取締役社長
平井 里美

株式会社大協

伊丹市のごみ収集事業 人材派遣業

環境ビジネスと人材ビジネスの両輪で、地域と業界に貢献します

考え方

株式会社大協は、伊丹市を中心として廃棄物収集をおこなっている既存事業と新たに立ち上げた人材派遣事業の2つの事業を展開しております。

廃棄物収集運搬事業は、地域社会において、なくてはならない社会インフラとしての役割を果たしつつ、安心・安全・丁寧な作業品質を心掛けて、サービスの向上をめざしております。

人材派遣事業は、環境ビジネス業界への人材派遣を通じて、人材不足解消だけでなく、働きやすい職場環境づくりや業界全体の底上げにも尽力していきたいと考えております。

来期にむけて

環境ビジネスに携わってきた長年の経験を活かし、社会インフラという重要な業種でありながら人材不足でお困りの同業他社様をサポートできないかという想いで立ち上げた派遣事業は、2017年の事業開始から着実に成長を続けています。人材が集まっても教育に費やす手間がかかることから、当社では研修制度を整え、人材教育をおこなった上で即戦力として派遣できるのが大きな強みとなっております。更なる成長に向けて、社内整備と組織の拡大をおこないつつ、労働環境への改善提案を通して、より多くの派遣スタッフが長期に安心して就業できる職場づくりにも力を入れていきたいと考えております。

また、派遣事業の人材研修には、当社で実際に作業をおこなっている現場スタッフが担当しており、業界未経験者をドライバーや作業スタッフに育成していく中で、現場スタッフのスキルアップやモチベーションの向上にも繋げていきたいと考えております。教育できる現場スタッフが更に増えていくことで、自社における作業品質や市民サービスの向上にも貢献していくという相乗効果も期待しており、今後も既存事業と新規事業の両輪で成長を加速させていきます。

大協の事業

廃棄物収集運搬事業

法人向けサービス

事業系一般廃棄物および産業廃棄物の収集運搬

事業所から搬出される一般廃棄物を定期的に回収し、市の処理施設に搬入。工場から排出される産業廃棄物、医療機関から排出される感染性廃棄物などの収集運搬も行っています。また、あらゆる産業廃棄物も迅速・安全に収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬。業務の効率化を図るため、電子 manifests を導入。多彩な車両や専用コンテナでニーズに応えます。

個人向けサービス

粗大ごみの回収

玄関や階段が狭くて運び出せないといった危険を伴う搬出作業や、大量の不用品を一気に処分したいというニーズにお応えします。

行政委託サービス

市のごみ収集を受託

伊丹市内の生活系ごみの収集運搬を行っています。この事業を「市民サービス」と捉え、地域に根ざしたサービスで社会に貢献したいと考えています。

取り組み

「廃棄物計量システム」と「従量課金制」

ごみを積み込むだけで重量が計測できるスケールバッカー車と、ごみの量をデータ管理する「廃棄物計量システム」を導入。「従量課金制」で、顧客のごみの減量への意識向上と処理費用の経費削減に貢献します。

BCP（事業継続計画）の策定と実行

サービスの遂行を妨げる事案に対してBCP（事業継続計画）の策定と実行に注力し、「いかなる時も市民サービスを止めない体制」を整えています。

3S「整理」「整頓」「清掃」の実行

職場の環境を美しく保つことを通して、業務の生産性や安全性、品質を向上させることをめざしています。



環境ビジネス業界に特化した人材派遣事業「G career（ジーキャリア）」は、エッセンシャルワーカーの育成から人材派遣、人材紹介、請負事業までをサポートしています。環境ビジネス業界の人材不足という課題解決だけでなく、採用や人材研修、定着率の向上、労働環境改善まで幅広くサポートすることで、業界全体の人事労務管理に貢献していきたいと考えています。

人材派遣事業

業界未経験の人材を育成するG careerの研修カリキュラム

ドライバー10日間、助手5日間の研修カリキュラムで、業界未経験者を育成し、「即戦力」として派遣できることが当社の大きな特徴です。研修には、直接の業務にかかわる運転技術や安全教育はもちろん、仕事に対する姿勢やマナー研修も取り入れ、環境ビジネス業界と地域社会に貢献する人材の育成をめざしております。



対応エリアと対応業界を拡大中

阪神間を中心に、大阪、神戸、奈良、京都、和歌山まで対応エリアを拡大。一般廃棄物業界だけでなく、産業廃棄物業界、ビルメンテナンス業界にも進出し、対応業種・職種も増やしています。

STAFF INTERVIEW

プライベートを充実させながら、自身の成長も感じられる仕事

入社のごきっかけは、当社で働いていた先輩に誘われたことです。以前は介護の仕事をしていましたが、土日が休みの仕事を探していました。入社前に、先輩から当社は休日や給与、福利厚生が充実していると聞いていました。朝8時に出勤し、帰りは5時半か6時には帰る生活で、毎日理想的な生活リズムが保てています。

入社して7年経ちました。この仕事のやりがいは、市民のみなさんが感謝を伝えてくれたり、子どもたちがバッカー車に手をふってくれたり、市民との交流が日常的にあること。もともと介護士だったので、人とのコミュニケーションが好きなんです。

2年前に主任に昇進し、部下に良いことも悪いことも「伝える」立場になりました。以前の私は消極的で人に伝えることに苦手意識がありましたが、それを克服し、仕事を通して自分の成長を感じています。

今の私には目標にしている上司が2人います。上司に近づくために、自分に足りないのは知識です。特に産業廃棄物については現場でしか学べないことがたくさんあります。できる限り現場で質問するなど、学ぶ時間を確保しています。自分が知識をつけることで、現場に安心感を与えられるような存在になりたいです。



寺尾 勇一

環境事業部 主任
2017年9月入社

環境ビジネスの魅力や可能性を伝え、業界の人手不足改善に貢献したい

前職は人材派遣・紹介サービス業に20年従事していました。転職を考えたのは新型コロナウイルス感染症流行時で、人材業界の中でも業界特化型で強みを持っている会社を探しており、そのような環境で自身のキャリアを活かし、高めたいと思っていました。

私の会社選びのもうひとつの軸は「社風」でした。大協の面接を数回受けるうちに平井社長はじめ社員の仕事に対する誇りや姿勢、人柄の良さに感銘を受けて、「この人たちと一緒に仕事がしたい」と思うようになり大協への入社を決意しました。当社のキャリア事業部は、環境ビジネスに特化した派遣会社としてスタートし、順調に成長しています。現在、私に求められている役割は、キャリア事業部を次のステップに導くこと。営業エリアの拡大や派遣先の業界や職種の展開をめざし、それに伴って社員も増員して組織としても拡大していく予定です。

当社も含め環境ビジネス業界は人手不足が顕著に現れている業界のひとつですが、私自身が転職を通して感じてきたこの業界の魅力や可能性を求職者の方に、「社会に役立つ誇りある仕事や業界である」ことを熱く伝え続けていく実践をしています。そして1人でも多く、この業界で活躍できる人材を育て、クライアントの事業発展と求職者の方の生活安定に貢献していきたいと考えています。



小野坂 豪

キャリア事業部 課長
2022年11月入社

ESGの取り組み

当グループは創業以来、地域の暮らしと産業が抱える課題に真摯に応えることを使命に事業を展開してまいりました。また、社会とともに歩む企業グループとして社会的責任を果たすことを心がけております。コーポレート・ガバナンスの強化はもちろんのこと、環境、社会の経営課題に長年にわたって取り組み、一歩ずつ前進してまいりました。今後もこれまで培ってきた経営基盤のもと、社会と産業における新たな課題の解決に向けて注力してまいります。

コーポレート・ガバナンス



環境における取り組み



コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に向けた取り組みを強化し、ステークホルダーのみなさまの信頼に応えてまいります



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、法令を順守し健全で透明な企業経営を行うことを基本に、「事業」を通じて優れたサービスを提供することにより、社会の発展に貢献するとともに、ステークホルダーからの期待と信頼に応えることを基本的な考えとしています。

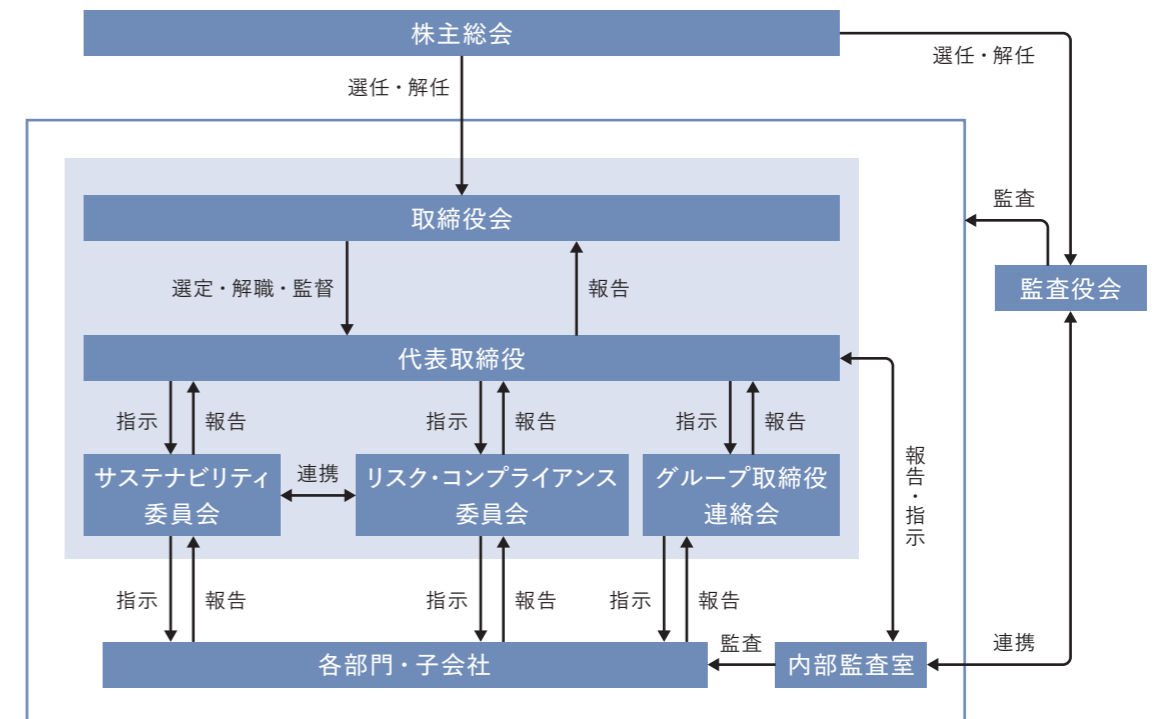
組織統治

経営管理体制

「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

当グループは、すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業および経営に努めています。また、グループ全体の持続的成長および中長期的な企業価値向上をめざし、コーポレート・ガバナンスの構築、強化に努めています。

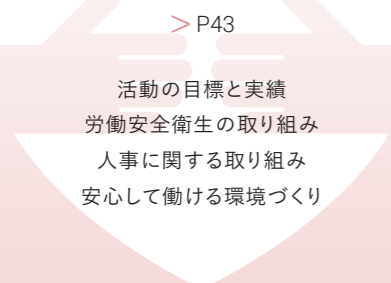
コーポレート・ガバナンス体系図



その他の会議体

各社事業会議／定例会 会社の方針や課題について協議することで、円滑な業務執行を図っています。

従業員とともに



地域社会とともに



取締役会

経営の重要な意思決定と
取締役の業務執行の監督を行います

当社の取締役会は8名（うち社外取締役1名）により構成されており、経営の重要な意思決定と各取締役の業務執行の監督を行っております。また、独立性の高い社外取締役より、客観的な提言および助言を得ております。

リスク・コンプライアンス委員会

総合的なリスク管理と
コンプライアンスの徹底に取り組みます

月に1回開催する当委員会は、グループ代表取締役社長を委員長とし、監査役、子会社代表取締役社長、取締役および委員長から指名された委員で構成されています。会合では潜在的・顕在的なリスクやコンプライアンス違反などについて協議・検討し、総合的なリスク管理に努めるとともに、研修教育を行い、企業の社会的責任とコンプライアンスの徹底に取り組んでおります。

リスク・コンプライアンス委員会では2023年度において、下記のような議題について報告、協議などを行ってまいりました。




反社会的勢力のチェック	販売先や取引先が反社会的勢力でないかのチェック状況の報告および課題についての協議
労務管理	時間外労働時間の実績（単月、累積）、入退社数の状況、有給休暇の取得状況などの報告および課題についての協議
内部監査報告・改善状況報告	実施した監査内容の報告および改善状況の報告
教育研修	研修の計画および実施 ・情報セキュリティの基本、個人情報保護法改正のポイント（全従業員向け） ・パワーハラスメント（全従業員向け） ・上司のハラスメント（役職者向け） ・景表法の基礎知識と事例（担当者、役職者向け） ・業務委託契約と下請法の理解（担当者、役職者向け） ・独禁法（入札談合と下請法）（担当者、役職者向け） ・労務管理（役職者）
事故報告	各社で発生した事故（車両や設備などでの事故および情報システム障害やセキュリティ事故含む）の概要および防止策などの報告
その他	人事労務関連法令の改正状況の共有

監査役会

業務執行の監視、監督を行っています

当社の監査役会は、常勤監査役1名、社外監査役2名によって構成され、監査役会規程に基づき原則毎月1回開催し、重要事項について報告、協議、決議を行っております。社外監査役2名は、それぞれ弁護士、公認会計士で、専門的見地と独立した立場から監査を行っております。取締役会のほか、グループ取締役連絡会などの重要な会議に出席し、重要な意思決定の過程および業務の執行状況の把握に努めるとともに、必要に応じて取締役に対して勧告などを行い是正を求めています。

VOICE

グッドホールディングス株式会社 常勤監査役 八鳥 尚志
グッドホールディングス株式会社 社外監査役 上田 憲
グッドホールディングス株式会社 社外監査役 南方 得男

「いつものことをいつものように出来ていますか？」
あなたがやるべき仕事の範囲はルールになっています。当グループの組織構造は「組織規程」に、ヨコの仕事範囲は「業務分掌規程」などに、タテの仕事範囲は「職務権限規程」などに記載されています。株主総会で決める「定款」は別として、社内規程は取締役会以下の権限者が決めています。
監査役は、ルールの決定過程とルールに則って仕事が行われているかを監査します。これらの規程に則って仕事を行っていれば、あなた個人が勝手にしたことではなく、「会社」の行為と見做されます。

「いつもと違うことに気付いたらどうしますか？」
お客様の役に立つことを考えて、新しい施策を考案し、着手すると思います。当グループではそれを推奨しています。一方、私たちの経営理念や法令に照らして、それを行うべきか検討するルールを持っています。新規事業を定型的に処理し、不適切な結果を起こさないためであり、当グループが新規事業を受け入れる組織であろうとする表れです。
日々の仕事の中でも、お客様ごとに仕事の内容は違いますし、時間が経つに従いお客様のニーズも変化していきます。また、仕事を進める中で、想定外のことも起こります。皆さんには、変化や想定外のことに気付いて欲しいです。難しいことですが、リスクを見つけるきっかけになるので、是非ともお願いします。

「変化に対してどう行動しますか？」
当グループはそれら変化などを受け入れる素地があります。変化などに気付いて、対処方法が分からない時は上司にご相談ください。会社としてどうすべきかを、一緒に考えてもらえたいと思います。
また、監査役のみならず経営陣は、このような変化に対処できるルールが十分に整備されているか、不当に個人の責任になるようなことはないかを確認しています。もしも気になることがあったらご連絡ください。

内部監査部門による監査

内部監査による検討評価、助言・提案、
フォローアップ監査を徹底しています

内部監査室は代表取締役の直轄部署として設置され、当グループの会計、業務、コンプライアンス、情報システムおよびリスク管理など専門的な知識をもって、効果的な監査を実施できる体制を整えています。内部監査結果については、内部監査報告書として取りまとめ、改善を要する事項が発見された場合には、助言・提案を行うとともに、被監査部門による改善状況をフォローアップ監査により確認しています。

また、内部監査の実施状況は当グループ全役員も参加するリスク・コンプライアンス委員会で報告し、委員会メンバーと共有しております。

グループ取締役連絡会

グループ全役員による連絡会で
協議を行います

グループ全役員および監査役、内部監査室長で構成され、月に1回開催しております。各社の業績報告や決議事項についての協議を行い、グループ内の共通認識を図る機関として運営しております。

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、グループ各社ごとに毎月1回行っております。この業績報告会では、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象にしており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっております。

サステナビリティ委員会

サステナビリティに取り組んでいます

サステナビリティに関する方針・目標・実行計画の策定、サステナビリティ課題に対する取り組み推進やTCFD提言に関する情報開示に加え、モニタリング、マテリアリティ（重点課題）の特定を行っております。その内容は代表取締役を経由し、取締役会にて原則年に2度報告されています。

内部通報制度

不正行為の未然防止、早期発見を図っています

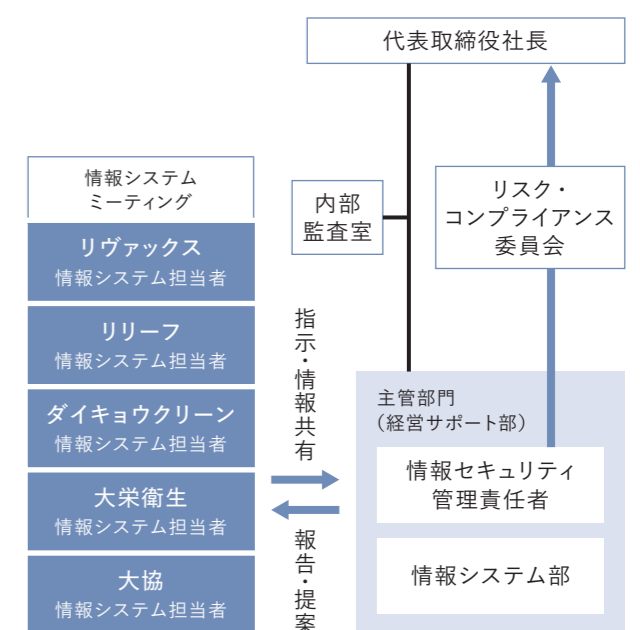
当グループでは、法令違反、規程違反、社会通念に反する行為などを早期に発見し、不正行為を未然に防ぐとともに必要な改善を図り、コンプライアンス経営の推進を目的として、内部通報・相談窓口（グッドホールディングス・ヘルプライン）を設置しております。通報・相談窓口は、社内と社外の両方に設置し、匿名での通報や組織的な問題に関する通報を行いやすいよう配慮した制度になっております。

情報システムセキュリティ体制

事業活動において取り扱う情報資産の保護を
私たちの責務と捉え、サービスの継続的な提供と
健全な事業の発展に努めています

当グループの取り扱うさまざまな情報資産に対する漏洩や改ざん、紛失などのリスクを回避・低減するため、「情報セキュリティ安全管理規程」ならびに「IT管理規程」を定め、情報セキュリティにかかわるリスク管理を行っております。また、規程の管理・運用は各社の情報システム担当者が担い、定期的に行われるミーティングやリスク・コンプライアンス委員会で、組織全体の情報セキュリティ体制を常時見直し、徹底した情報資産の保護・管理に努めております。

情報システムセキュリティ体制



法令順守

法令順守状況

2023年度も重大な違反はありませんでした

グループ各社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正に行われているかなどを、適宜確認しています。

2023年度においても、前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

事業に関する主な法令(抜粋)

法令	内容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備え付けなど
大気汚染防止法	NOx、ばいじんなどの排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準など
騒音規制法 振動規制法 悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
道路交通法	走行速度、停車・駐車禁止、過積載の禁止
道路運送車両法	自動車の点検および整備義務
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任など
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施など
酸素欠乏症等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検など
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検など
西宮市との環境保全協定	大気・悪臭などの測定方法や回数など

順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

当グループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、「順守評価記録」で管理しています。この記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価するとともに、万一、違反が発見された時は是正処置を行う手順を確立しています。事業にかかわる法改正については、当該記録項目を改訂するとともに、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

順守評価記録

過積載の防止

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物の収集運搬を行う株式会社リヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。

処理前契約締結の徹底

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託および受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。当グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。とりわけ、産業廃棄物事業を主体とする株式会社リヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認を行うことにより、処理前の契約締結に努めています。

情報開示・説明責任

サステナビリティレポートの発行

事業活動だけでなく、社会や環境への取り組みをお伝えするコミュニケーションツールとして、毎年発行しています

廃棄物処理事業そのものや、当グループの取り組みを広く知っていただきたいとの思いで、株式会社リヴァックスは2002年から、株式会社大栄衛生および株式会社大協は2008年から報告書を発行してまいりました。2015年からはグループ統括で毎年発行しております。

今後もステークホルダーの皆さまと私たちを結ぶ重要なコミュニケーションツールとして、引き続きその充実に努めてまいります。



産廃情報ネットでの情報開示

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度※」が創設されました。グループ各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。同制度の事業の透明性に係る基準に沿って、当グループの許可内容や財務諸表などの情報を、公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」に公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準 ①適法性 ②事業の透明性 ③環境配慮の取組 ④電子マニフェスト ⑤財務体質の健全性 すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。

「産廃情報ネット」 <https://www.sanpainet.or.jp>

メールニュース・Webでの開示

活動報告、活動状況などを掲示・メール配信しています

毎月、グループ各社の最新の活動報告やセーリングチームの活動状況などをWebサイト (<https://www.goodhd.co.jp/>) にて掲載しております。また、各社が自社の活動報告やイベント告知をお知らせするほかに、グループ共通で展示会・セミナーの案内などをメールニュースにて配信しています。これ以外にも月1回、株式会社リヴァックスでは「廃棄物・リサイクル関連法の最新情報」として、法改正の状況や行政が主催する案内を配信しています。



Webサイト



メールニュース

環境における取り組み

全グループを挙げて、事業活動における環境負荷の低減に努めています

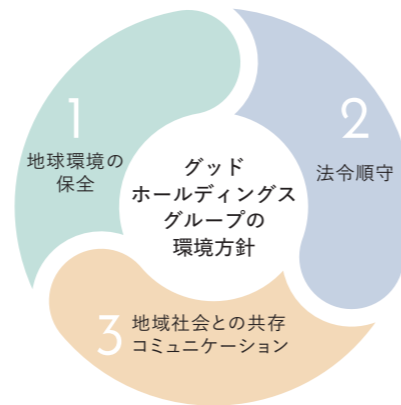


基本的な考え方

地球環境を守り、社会の持続的な発展に貢献していくことは私たちの責務です。グッドホールディングスグループは、地球環境の保全、法令順守などへの取り組みを継続し、事業環境にともなう環境負荷の低減などに努めています。

マテリアルバランス

2023年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO₂) などの環境への排出量 (OUTPUT) は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握したうえで、資源の有効活用および環境負荷の低減に取り組んでいます。



INPUT

エネルギー

電気	3,953 千kWh	前年度比 50% ↑
都市ガス	175,654 m ³	前年度比 94% ↑
軽油	8,105 ℓ	※2 前年度比なし
軽油	652,717 ℓ	前年度比 8% ↑
天然ガス	5,100 Nm ³	前年度比 31% ↓
電気	198 千kWh	前年度比 1% →
都市ガス	380 m ³	前年度比 23% ↓
ガソリン	33,403 ℓ	前年度比 8% ↑

水資源

上水道	7,415 m ³	前年度比 13% ↑
工業用水	65,492 m ³	前年度比 20% ↑

OUTPUT

CO₂排出

CO ₂ 排出	4,117 t-CO ₂	前年度比 37% ↑
電気	1,567 t-CO ₂	※1 前年度比 67% ↑
都市ガス	360 t-CO ₂	前年度比 77% ↑
軽油	21 t-CO ₂	※2 前年度比なし
軽油	1,990 t-CO ₂	前年度比 22% ↑
天然ガス	14 t-CO ₂	前年度比 13% ↓
電気	86 t-CO ₂	前年度比 39% ↑
都市ガス	1 t-CO ₂	前年度比 1% →
ガソリン	76 t-CO ₂	前年度比 6% ↑

水域への排出

排出量	63,495 m ³	前年度比 51% ↑
-----	-----------------------	------------

→ 公共下水道への排出量
※排水の一部はリヴァックスの冷却塔で蒸発

リヴァックスプラント
業務重機
オフィス
水処理施設・洗車

二酸化炭素 (CO₂) の排出係数 参考データ (環境省) | 電気: 0.000434 t-CO₂/kWh 都市ガス: 0.00205 t-CO₂/m³ 軽油: 0.00262 t-CO₂/ℓ
天然ガス: 0.00279 t-CO₂/m³ ガソリン: 0.00229 t-CO₂/ℓ

※1 トラッキング付非化石証書の導入により2023年7月~2024年3月の期間はメタンプラントにおいてCO₂排出量ゼロを実現しております。
※2 2023年度よりプラント軽油はメタンプラントで使用したものを計上しており、業務車両および重機は「業務重機」に計上しております。

活動の目標と実績

活動企業	2023年度目標	2023年度実績	結果	2024年度目標
リヴァックス				
処理・運搬におけるエネルギー使用量削減	電気: 165.07kWh/t以下 燃費: 4.14km/ℓ以上	160.71kWh/t 4.2km/ℓ	×	前年度以下 前年度以上
オフィスにおけるエネルギー使用量削減	電気: 4,859kWh/月以下 燃費: (営業部): 22.77km/ℓ以上 燃費: (swell事業部) 18.87km/ℓ以上	4,996kWh 23.64km/ℓ 19.39km/ℓ	×	前年度以下 前年度以上 前年度以上
安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水の自主基準値遵守	10 悪臭: 基準値内 排水: 自主基準超過 (役所排水においては基準値以下)	×	お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ 悪臭・排水の自主基準値遵守

リリーフ				
エネルギー使用量削減	電気: 27,426.75kWh以下	27,867.25kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 13.54km/ℓ以上 軽油: 6.71km/ℓ以上	15.02km/ℓ 6.59km/ℓ	○	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	事務所内の廃棄物減量: 800kg以下	793kg	○	前年度以下

ダイキョウクリーン				
エネルギー使用量削減	電気: 27,426.75kWh以下	27,867.25kWh	×	前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	ガソリン: 7.24km/ℓ以上 軽油: 5.48km/ℓ以上	12.11km/ℓ 5.45km/ℓ	○	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 798.1 m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 264kg以下	719 m ³ 312.4kg	○	前年度以下 前年度以下

大栄衛生				
エネルギー使用量削減	電気: 27,426.75kWh以下 ガソリン: 11.2km/ℓ以上	27,867.25kWh 11.5km/ℓ	×	前年度以下 前年度以上
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	軽油: 2.59km/ℓ以上 天然ガス: 8.27km/Nm ³ 以上	2.83km/ℓ 5.35km/Nm ³	○	前年度以上 前年度以上
環境負荷低減	水の使用量削減: 2,793 m ³ 以下 事務所内の廃棄物減量: 470.1kg以下 CO ₂ 排出量削減: 602,685kg-CO ₂ 以下 グリーン購入の推進	2,354.8 m ³ 508.2kg 621,063kg-CO ₂ コピー用紙などの対象品目の購入	○	前年度以下 前年度以下 前年度以下 継続的な実施

大協				
エネルギー使用量削減 (1時間あたり)	電気: 30,344kWh以下 ガソリン: 14.52km/ℓ以上 都市ガス: 113.2 m ³ 以下	27,155kWh 14.94km/ℓ 100.4 m ³	○	前年度以下 前年度以上 前年度以下
効率的な資源の使用 (燃費の維持)	コンテナ車: 4.76km/ℓの±3% 大型車: 2.61km/ℓの±3% 小型車: 3.40km/ℓの±3% 平ボディ車: 5.31km/ℓの±3%	4.77km/ℓ 2.68km/ℓ 3.55km/ℓ 5.49km/ℓ	○	前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3% 前年度比±3%
環境負荷低減	水の使用量削減: 1,796 m ³ 以下 紙の使用量削減: 234.00kg以下 事務所内の廃棄物減量: 435kg以下	1,805 m ³ 227.25kg 423kg	○	前年度以下 前年度以下 前年度以下

グッドホールディングス				
エネルギー使用量削減	電気: 27,426.75kWh以下	27,867.25kWh	×	前年度以下

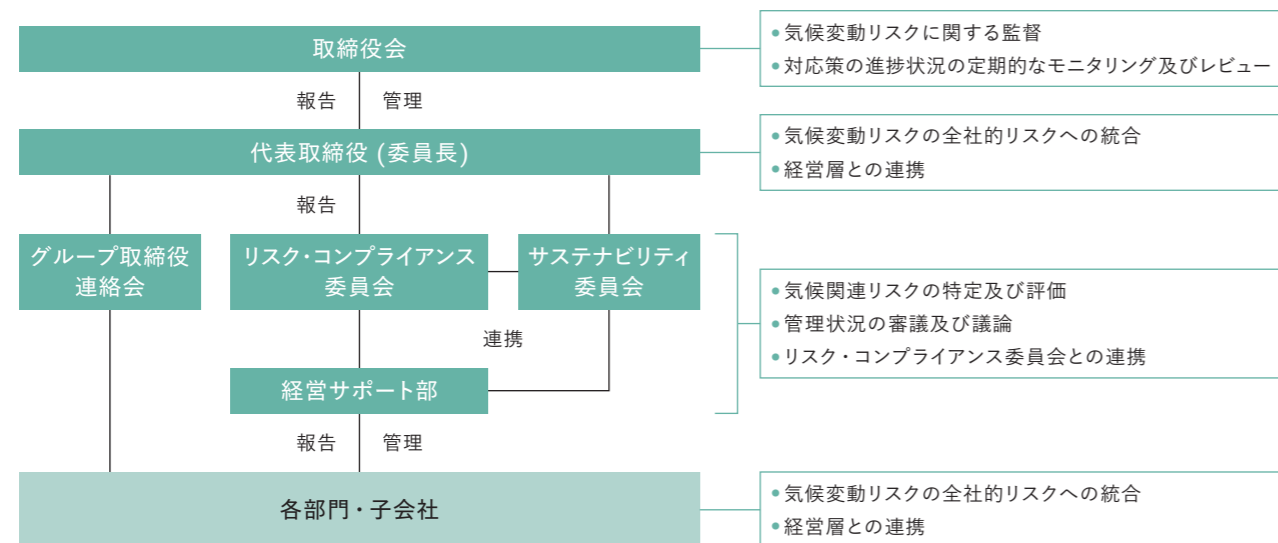
TCFD提言の枠組みに沿った情報開示

当グループは、1953年の創業以来、その時代の社会問題に向き合い、解決策を示すことで環境ビジネスを展開しており、2022年度からの新たな展開として、メタン発酵によるバイオガス発電事業や環境ビジネスをテーマとしたベンチャー企業への出資をスタートさせています。今後も環境ビジネスに携わる事業への投資や協業を行うことで、より広い視野でサーキュラー・エコノミーを構築していく方針です。社会課題と真摯に向き合うことで生まれる新規事業やイノベーションにも期待し、次年度もSDGsやサステナブル社会の実現をめざして進化していきたいと考えており、本方針に基づき、2021年6月に改訂されたコーポレートガバナンス・コードの内容も踏まえうえでTCFD提言に基づいた気候変動に関する重要情報を以下にて開示いたします。

ガバナンス

気候変動をはじめとした地球規模の環境問題への配慮、人権の尊重、従業員を含む全てのステークホルダーへの公正・適正な事業活動など、社会や企業のサステナビリティを巡る課題解決を事業機会と捉え、これに向けた取り組みを推進するため「サステナビリティ委員会」を2023年11月に設置いたしました。

当委員会はサステナビリティの方針策定や課題に対する取り組み推進やモニタリング、マテリアリティ(重点課題)の特定を担っており、その内容を原則年2回取締役会に報告してサステナビリティ活動やKPIのモニタリングを行う仕組みとしています。



戦略

TCFD提言で示された各リスク・機会の項目を参考に、気候変動が当グループの事業に及ぼすリスク・機会に関して、以下の4ステップで検討いたしました。

また、外部環境の変化や様々な状況下におけるリスクや機会を考慮するため1.5°Cシナリオと、4°Cシナリオの双方において、政策や市場動向の移行(移行リスク・機会)に関する分析と、災害などによる物理的変化(物理リスク・機会)に関する分析を実施しました。



リスク・機会のインパクトと対応策

気候変動シナリオをもとに当グループの事業に与えるリスク・機会に関して、抽出したリスク・機会の項目が事業に与える影響について定性・定量評価を行い、対応策を立案し、レジリエンスを高めております。

当グループとしては気候変動リスクの時間軸を短期(〜3年)、中期(3年〜6年)、長期(6年〜27年)とし、リスク・機会が当グループに与える影響度合としてはリスク大:5億円以上の影響、中:2,000万円以上〜5億円未満の影響、小:2,000万円未満の影響として総合評価した後に発生可能性評価を追加して影響度合いを決定しております。

リスク機会の種類	要因	事業への影響	影響	期間	対応策	
移行リスク (1.5°Cシナリオで最も顕在化すると想定)	政策・規制	炭素税導入・炭素税率の上昇	炭素税の負担による収益の減少、収集運搬に伴う化石燃料コストの上昇	中	中期〜長期	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ機器への入替 化石エネルギーの使用量が少ないサービスの強化・拡充 営業車 収集車両のEV車両への移行検討 非化石証書、再エネの購入
	移行リスク	電気料金の上昇	電気料金上昇に伴う中間処理操業コストの増加	中	短期〜中期	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ機器への入替 化石エネルギーの使用量が少ないサービスの強化・拡充 再エネ設備(オフサイトPPA等)の導入検討
	市場	原油価格の上昇	収集運搬及び既存設備運用に伴う化石燃料コストの上昇	中	中期	<ul style="list-style-type: none"> EV車両導入の検討
		気候変動対応への遅れ	排出量を基準とした取引先の選定の推進	小	短期〜長期	<ul style="list-style-type: none"> 排出量の開示及び目標に対しての進捗の開示
		環境に配慮した取り組みによる廃棄物減少	リデュースへの取り組みによる廃棄物の減少が進み売上減少	中	短期〜長期	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物発生抑制に向けたコンサルティング等のサービス拡大
	物理リスク (4°Cシナリオで最も顕在化すると想定)	慢性	労働環境の悪化、気候変動起因の病気による従業員の生産性低下	中	長期	<ul style="list-style-type: none"> 労働環境の改善と業務効率化への対応 省人化、無人化、DXによる周辺業務の削減
急性		異常気象の激甚化	洪水など中間処理拠点損壊に伴う処理能力の低下	中	短期〜中期	<ul style="list-style-type: none"> プラント建設時の嵩上げ(一部実施) 保険への加入(対応済)
機会	資源効率	未利用資源の価値化	未利用資源の使用により、最終処理施設の利用コスト減少	中	短期	<ul style="list-style-type: none"> メタン発酵による中間処理稼働 資源循環となる処理メニューの強化・拡充
	製品とサービス	環境配慮商品/サービスに対する需要の増加	環境配慮商品/サービスに係る収益の増加	中	中期	<ul style="list-style-type: none"> 収集運搬車両のEV車両への移行検討 廃棄物の資源循環メニューの拡大、コンサル強化
	市場	気温上昇に伴う自然災害増加	災害廃棄物処理の収集運搬依頼や災害復旧作業の要請増加	大	短期〜中期	<ul style="list-style-type: none"> 特殊車両による災害復旧支援作業の対応強化
		有機性廃棄物の価値拡大	サーキュラーエコノミーによる有機性廃棄物の活用機会増加	中	短期〜中期	<ul style="list-style-type: none"> メタン発酵による中間処理稼働 資源循環となる処理メニューの強化・拡充 有機性廃棄物を原料とする用途開発
		CO ₂ 排出量の少ない廃棄物処理の需要拡大	バイオガス発電の需要増加に伴う収益の増加	中	短期〜中期	<ul style="list-style-type: none"> メタン発酵運転ノウハウを活用したビジネス創出 メタン発酵施設による中間処理

リスクへの対応

将来の炭素税リスクに対応すべく、自社電源の再生可能エネルギーへの切り替えや設備更新、高効率化による省エネルギー施策の推進、化石燃料の電力へのシフト、省エネルギーに貢献する製品・加工技術の開発や提供など、多様な視点から取り組みを進めてまいります。

取り組み1 バイオマスボイラーの活用

2014年より当社リサイクル施設に木質チップを燃料としたバイオマスボイラーを導入し、カーボンニュートラルなエネルギー利用に転換しております。従来の都市ガスからバイオマス燃料にすることで、導入前より自社の年間CO₂排出量を62%削減することに成功しております。

取り組み2 再生可能エネルギーへの切り換え推進

当グループが排出する大部分は電気が占めています。これを削減するため、今後、バイオマス、太陽光発電設備の設置検討を進めていくほか、太陽光、風力、水力などで発電した再エネ電気を利用するなど、再生可能エネルギーへの切り換えを推進します。

取り組み3 省エネルギー施策の推進

従来から取り組んでいる、空調の温度設定、こまめな消灯やペーパーレス化などの省エネ運動に加え、照明器具のLED化、デマンドコントロール、物流の効率化など省エネルギー対策を加速していきます。

取り組み4 化石燃料を電力へ転換

現状のハイブリッド車やEVトラックでは、当社のメイン車両である中型車両がなく、且つ小型、大型車車両においてもPTO（エンジンの動力を走行以外の動力として利用する機能）が装備されておらず、現状では当グループの作業車両として利用できないが、当面はハイブリッド、EV、水素などの技術の進展及び市場動向を観察し、実用可能と判断した時点での導入を検討しております。

取り組み5 製品・加工技術の提供を通しての社会貢献

自社の中間処理やサービス提供に伴うCO₂排出量の削減だけでなく、資源循環となる処理メニューの強化拡充及び省エネルギーに貢献するサービスなどの提供を通して、幅広く社会に貢献します。

取り組み6 バイオガス発電プラントの活用

当グループである株式会社リヴァックスにおいて、食品由来の有機性廃棄物を原料とした西宮バイオガス発電プラントを建設し、リサイクル・再生利用を前提とする新しいエネルギー創造システムの構築に取り組んでいます。同発電プラントにより以下の効果を見込んでいます。

- 1 再生可能エネルギーの供給により、同等電力量を化石燃料で生み出したときに比べ、年間1,800tCO₂排出量を削減します。
- 2 西宮市、阪神エリアを中心とした食品由来の廃棄物をエネルギー源として活用し、約1,000世帯分の再エネ電気を生み出します。

リスク管理

気候関連リスクを識別・評価するプロセス

当グループでは、「リスク・コンプライアンス委員会」を中心に、事業運営上において発生しうるあらゆるリスクの予防、発見、是正、及び再発防止に係る管理体制の整備と発生したリスクへ対応を行っております。

特に気候変動に伴うリスクについては、「サステナビリティ委員会」を新たに設置し、経営サポート部と連動し各事業部門から抽出及び議論したうえで取締役会へ報告されます。

気候関連リスクを管理するプロセス

特定した気候関連リスクについてはサステナビリティ委員会においてその対応策を審議及び議論しており、各課題毎に2030年度目標を定め、特に当社の事業活動に影響を及ぼす可能性が大きいと判断したリスクに関する対応策は取締役会へ報告して、マネジメントレビューを受けます。

気候関連リスクの全社的リスク管理への統合プロセス

気候変動にかかわるリスク管理体制はサステナビリティ委員会にて取りまとめ、取締役会に報告することにより全社的なリスクとして統合しております。統合したリスク管理の状況と対応について報告を受けた取締役会は各委員会を經由して指示・監督を行うことにより常に対処状況をモニタリング及び全社的なリスク管理体制を構築しています。

指標と目標

当グループでは、気候関連問題が経営に及ぼす影響を評価・管理するため、温室効果ガス（GHG）排出量を指標と捉え、GHGプロトコルに基づき算定を実施しております。GHGの削減目標については、当グループ全体を対象とし、2030年度に2013年度の基準排出量（Scope1、2）7,003t-CO₂からの38%以上の削減を目標としております。

また、2023年度より、当グループを算定対象としたサプライチェーン全体のGHG排出量の算定を実施しております。Scope3排出量に関しましても、対象となるカテゴリの算定を実施しました。今後は2050年カーボンニュートラルに向けて排出量削減の取り組みを強化していきます。

グッドホールディングスグループのGHG排出量削減目標

指標	目標水準
GHG排出量 Scope1、2	2030年度 CO ₂ 排出量38%削減(2013年度基準) 2050年度 CO ₂ 排出量ネットゼロ(SCOPE1、2)

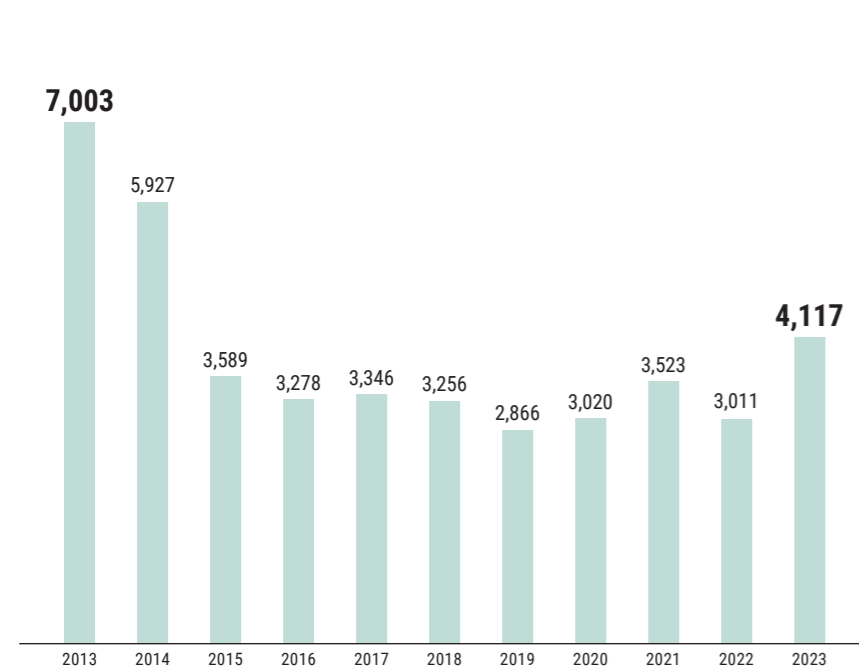
グッドホールディングスグループのGHG排出量実績および目標

	2023年度	2030年度目標	2050年度目標
Scope1	2,549	3,400	0
Scope2	1,677	930	0
Scope1+2	4,226	4,330	0
Scope3	10,094	-	-

2022年度の排出量実績については、HPに掲載しております。

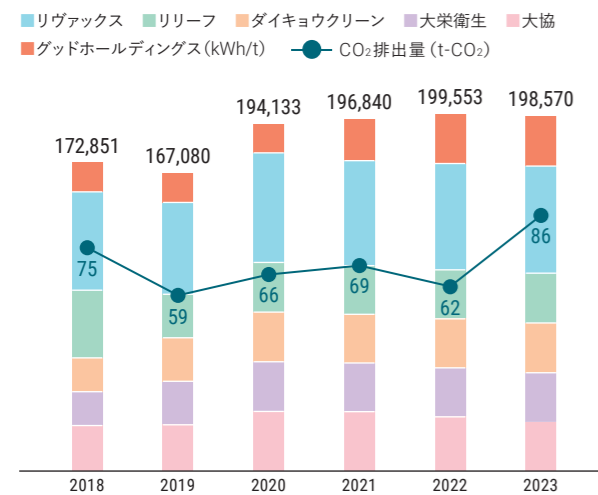
環境負荷低減の取り組み

CO₂総排出量 (t-CO₂)



2021年に開催された気候変動サミットにて、日本は2030年度のCO₂削減目標を「2013年度から43%削減」と宣言しました。グッドホールディングスグループでは、リヴァックスが2014年に新設したバイオマスボイラーを活用することで、2013年度に7,003t-CO₂だったCO₂排出量が2023年度には4,117t-CO₂と、41.2%の削減を達成しております。また、2023年7月から本格稼働した「西宮バイオガス発電プラント」においては、同年7月から翌年3月に使用したすべての電力をトラッキング付非化石証書の導入で再生可能エネルギー由来電力に切り替えたことによりCO₂排出量ゼロを実現しております。

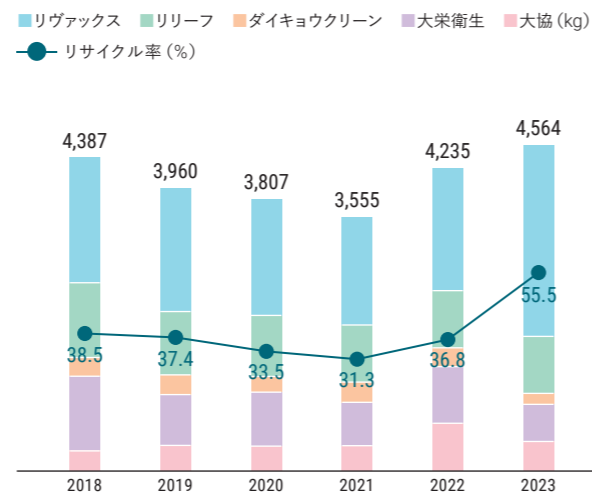
オフィスの電気使用量



照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

今年度は昨年に引き続き空調の温度管理や従業員への節電意識の向上を実施したことにより、オフィスでの電気使用量は198,570kWh/tで前年度比0.5%減でした。

オフィスのごみ排出量

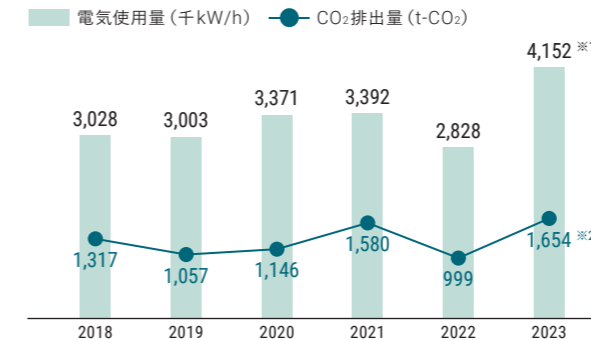


分別・リサイクルの徹底に努めています

オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。2023年度のオフィスからの総排出量は4,564kg、リサイクル率は55.5%でした。業務での使用により総排出量は15%増加してしまいましたが、リサイクルを徹底することでリサイクル率は34%増加することができました。

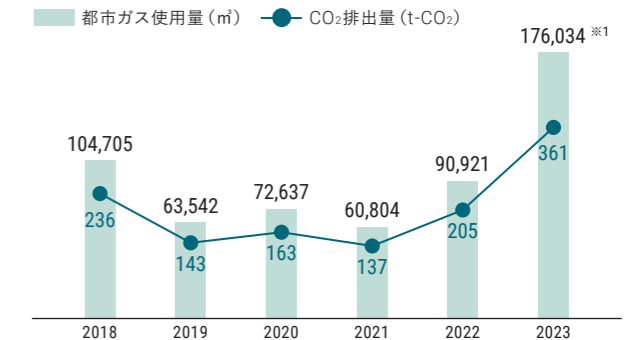
環境パフォーマンスデータ

処理センター・オフィスの電気使用量

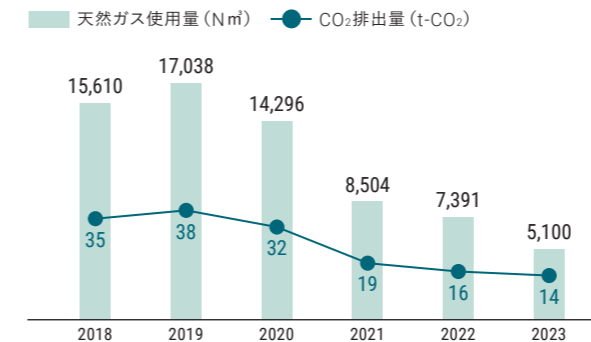


※1 リヴァックスのメタンプラント本格稼働により使用量が増加しました。
 ※2 トラッキング付非化石証書の導入により2023年7月～2024年3月の期間はメタンプラントにおいてCO₂排出量ゼロを実現しております。

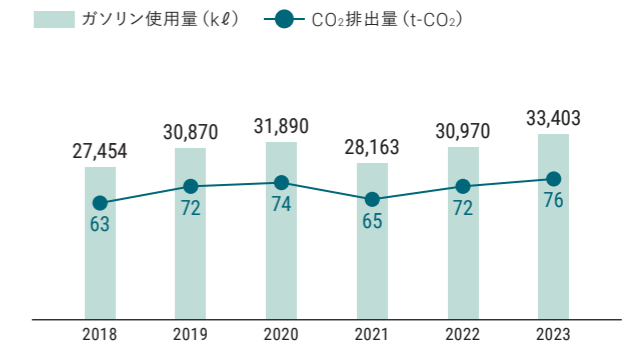
処理センター・オフィスの都市ガス使用量



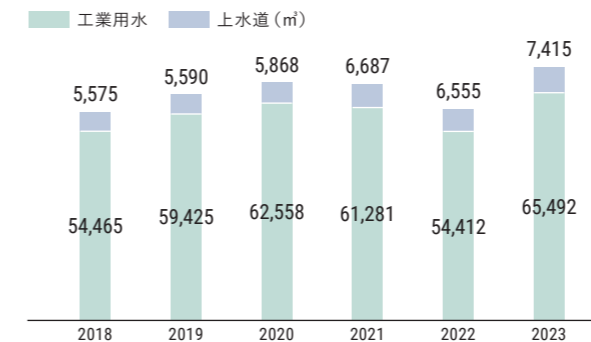
天然ガス使用量



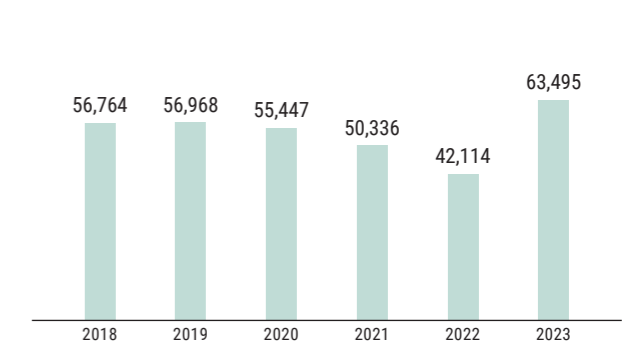
ガソリン使用量



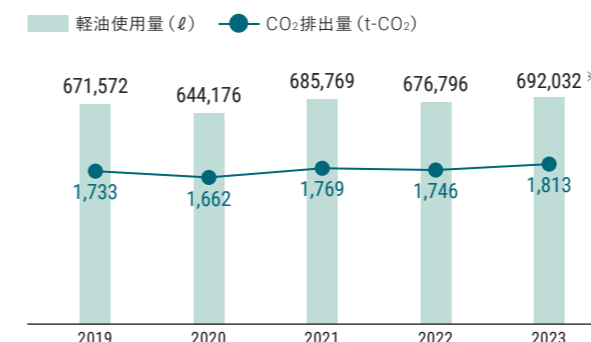
水使用量



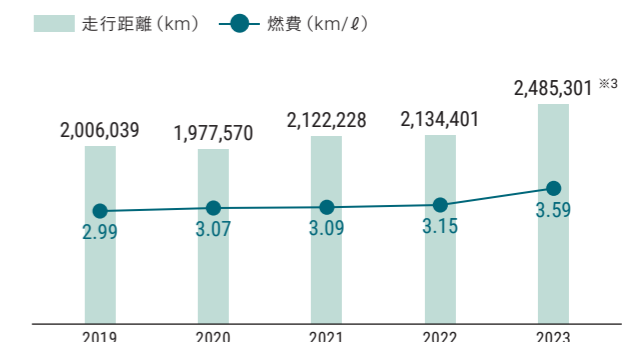
水域への排出量 (m³)



軽油使用量(業務車両、重機)



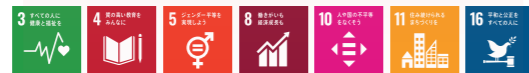
軽油の燃費(業務車両、重機)



※3 2023年度よりダイキョウクリーンの関東事業所分を合算、リヴァックスの新プラント稼働により使用量が増加しております。

従業員とともに

一人ひとりが仕事に誇りと生きがいを持てる企業グループをめざして



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、あらゆる人の尊厳と人権を尊重し、その重要性と普遍性を認識しています。また、従業員一人ひとりの個性を活かし、ゆとりや豊かさを実感し、生きがいをもって働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社員ならびに従業員とその家族を含め、お客様のために働くすべての人たちが安心して働ける職場環境づくり

2023年度目標		2023年度実績		結果	2024年度目標	
リヴァックス	労働災害: 0件	5件	×	×	0件	
	事故ゼロ 物損事故: 16件以下 (前年度比50%以下)	27件	×	×	0件	
	安心して働ける 職場環境づくり	パトロールの実施: 月1回 社内一斉清掃の実施: 年2回	月1回実施 年2回実施	○	パトロールの実施: 月1回 社内一斉清掃の実施: 年2回	
	従業員の疾病予防・健康増進	・ストレスチェックの実施 ・定期健康診断の実施 ・社内での感染症まん延防止	○	○	従業員の疾病予防・健康増進	
リリーフ	事故件数の削減 7件以下	労働災害: 3件/物損事故: 14件	×	×	15件(前年度比10%以下)	
ダイキョウクリーン	事故件数の削減 4件以下	労働災害: 1件/物損事故: 14件	×	×	13件(前年度比10%以下)	
大栄衛生	事故件数の削減 7件以下	労働災害: 4件/物損事故: 22件 環境事故: 1件	×	×	24件(前年度比10%以下)	
大協	事故件数の削減 12件以下	労働災害: 6件/物損事故: 9件 人身事故: 1件	×	×	7件	
グッドホールディングス ※グループ全体の数値を記載しております	情報セキュリティ 事故件数	深刻、重大事故: 0件 限定的、軽微事故: 2件以下	0件 0件	○	○	深刻、重大事故: 0件 限定的、軽微事故: 2件以下
	情報システム 障害件数	深刻、重度障害: 0件 限定的、軽微障害: 6件以下	0件 2件	○	○	深刻、重度障害: 0件 限定的、軽微障害: 6件以下
	36協定違反: 0件	5件	×	×	0件	
	有給消化取得5日以上: 100%	取得率: 100%	○	○	100%	

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント/ヒヤリハット

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

株式会社リヴァックスでは、ISO45001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントを行っています。2023年度は1,188件の危険源を抽出し、その中からリスクポイント

の高い危険源を205件特定し、リスク管理を実施しました。リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例:安全柵の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策を講じています。また、事故に至らずともヒヤリハットの抽出も常時行っており、2023年度は168件でリスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

収集業務の全車両に搭載し、事故を未然に防ぎます

株式会社大栄衛生、株式会社大協では、業務で使用する全車両にドライブレコーダーを車両前後に搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立っています。

さらに2023年1月からは一部の収集車両でリアルタイムに位置情報を把握し、収集ルートにおいて安全で効率的な運行や経済走行による燃費向上に役立つシステムを導入し、安全運転やCO₂削減に取り組んでいます。今後は適用する車両を拡大していく予定です。



ドライブレコーダーの映像

環境・安全に対する対策

安全管理および廃棄物管理に関する研修に参加しています

廃棄物に関する基礎知識の習得、環境保全および労働安全に対する意識づけを目的とし、大阪府産業資源循環協会が実施している廃棄物管理士講習会に参加いたしました。また、廃棄物の収集・運搬過程についても知見を深めるため、産業廃棄物または特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会へも参加しております。

交通安全運転講習

作業員全員が安全講習を受講し、事故防止に取り組んでいます

当グループは全体で111台の業務車両を保有しております。事業を行う上で「安全」は最優先事項であり、グループを挙げて交通事故防止に取り組んでいます。安全運転を徹底するための教育の一つとして、清掃組合主催の交通安全講習会に作業に携わる従業員が全員参加し、事故の実例や普段見落としがちな危険について学んでいます。



交通安全講習会

5S活動の推進

「整理・整頓・清掃・清潔・躰」

きれいな職場を保つことが労働安全衛生に繋がるとの考えのもと、これまでの3S活動に加えて、5S活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を推進しています。備品や工具類の使用頻度基準を定め、それをもとに必要な数および保管場所決め、だれが見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。これらの活動は、仕事に使う備品や道具を探し回らなくなるなど、無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。



人事に関する取り組み

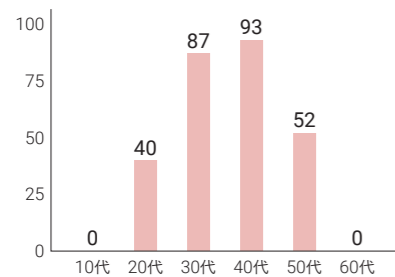
人事制度

「年功型」と「成果型」に加え、「技能・知識型」を調和させた人事制度を運用しています

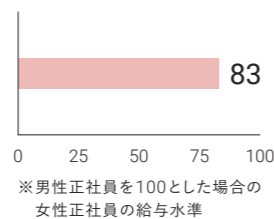
当グループでは、社員が安心して働くことができ、かつ取り組んだ仕事の成果が正当に評価される人事制度をめざしております。人事制度は、社内外の環境の変化に適応し、その時の状況に合ったものに変化させていくことが大切であると考えております。2018年度には給与体系の考え方を整理し、「年功型」と「成果型」、さらに「技能・知識型」と

3つの観点を調和させた制度で、有資格者や専門的な知識を有する社員には、それに見合った手当を支給するなどの見直しを行い、2023年度時点で合計192名に資格取得の手当を支給しております。また、2020年度は同一労働同一賃金に対応するため、アルバイトや派遣社員等有期契約社員の待遇面や福利厚生面の見直しを行い、就業規則などを改訂し2021年度から施行しております。加えて、新型コロナウイルス感染対策としてのテレワーク実施状況を踏まえて、在宅勤務規程を新たに制定しております。

2023年度の正社員の年齢構成(名)



2023年度の男女間の賃金格差(男性=100*)



人事関連データ

種類	年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023
社員	(名)	198	214	228	240	262	272
アルバイト	(名)	57	65	68	74	89	119
従業員数*	(名)	255	279	296	314	351	391
女性従業員比率	(%)	11.4	11.6	13.5	12.1	13.4	14
女性役職者比率	(%)	8.6	8.5	8.5	10	9.9	15
社員平均年齢	(歳)	46.3	39.0	40.2	39.6	39.5	40.0
社員平均勤続年数	(年)	9.3	8.5	8.9	7.2	8.6	8.3
社員離職率	(%)	7.6	13.2	9.5	11.5	14.8	15.2

※ 男性正社員を100とした場合の女性正社員の給与水準
※ 社会保険未加入の時短勤務対象者も含む

当グループの男女間賃金格差は83で、2023年度の日本国内平均の74.8に対して格差は小さい結果でした。(令和5年賃金構造基本統計調査結果 参照)

格差については女性の平均勤続年数が男性に対して3.4年短いこと、女性役職者の割合が男性に対して1/4の人数であることが要因です。

各種規程の制定や改定

法令の改正とともに、人事制度や働き方の改善や選択肢の拡大に対して、関連する規程の改定や新たな規程の制定を継続的に行ってまいります。2023年度には、下記記載の規程改定を行いました。

制定	新たな規程の制定はありませんでした
改定	就業規則、職能グレード規程、業務分掌規程

- 廃棄物管理士 1名
- 職長・安全衛生責任者 3名
- 酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者 5名
- ビジネスキャリア人事・人材開発検定(3級) 1名
- ゴンドラ特別教育 3名
- はい作業主任者 2名

資格取得支援制度の活用

働く人のキャリアアップを目的に資格取得支援制度を設けております

勤務するうえで必要となる資格や技能講習や定期的な研修の受講はもちろんのこと、社員全員が安全かつ質の高い業務遂行ができるよう資格取得の支援を行っております。

安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・インテグレーション

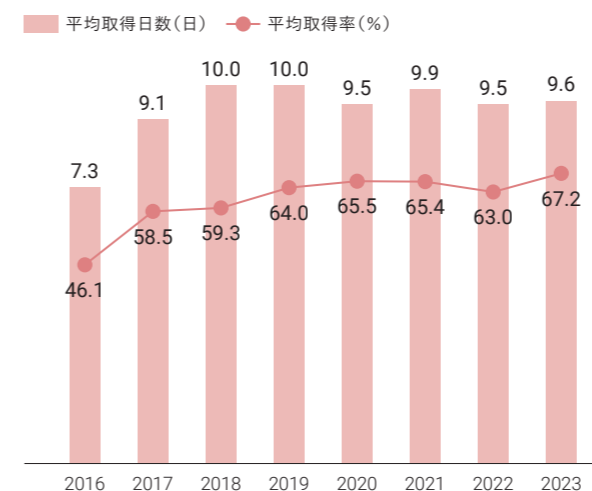
ライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

当グループでは、性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めております。また、2018年度から働き方改革の一環として、勤怠管理システムを当グループで導入しました。同システムの導入により残業時間や有給休暇などの効率的な管理が可能となっています。これにより、従業員本人が自分の勤務状況について確認ができるとともに、上司が部下の残業時間などをリアルタイムで確認・把握できるようになったことで、仕事の割り振りや配分を適宜調整することなどが可能となり、結果的に残業時間の低減につながっています。

また、従業員のワーク・ライフ・インテグレーション(仕

事と生活の融合)の実現を重要テーマと捉え、出産や子育て、家族の看護や介護など、多様なライフイベントに合った制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。具体的には、配偶者の出産時に3日間の特別休暇制度を設けているほか、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしております。また、2020年度は震災や台風・暴風雨などによる災害時に特別休暇を取得できるように就業規則を改定しました。さらに新型コロナウイルス対策のために在宅勤務を実施するとともに、制度の整備を行い、2021年度から正式に在宅勤務制度を導入しております。2022年度は、育児・介護休業法改正に伴い、育児・介護休業規程を改定し、男性社員の育児休業の取得を推進しております。このように環境の変化や働き方の多様化に対応し、従業員の安全安心につながる制度となるよう継続した改善と整備を行っています。

有給休暇取得状況



主な支援制度

制度名	制度の内容	2023年度利用者数/取得比率
産前産後休業制度	出産前および出産後において一定の期間で休業が可能です	1名
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6ヵ月まで)休業が可能です	3名 男性2名/18% 女性1名/100%
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します	1名
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	4名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	26名

社内研修について

各種研修を実施

働きやすく快適な職場環境とするために、様々な研修を実施しております。研修は管理者に向けたものや全従業員に向けたものなど状況や必要に応じた内容を計画しております。2023年度の実施内容についてはP31をご覧ください。

地域社会とともに

地域社会と地球のために貢献できることを追求する企業グループへ



基本的な考え方

グッドホールディングスグループは、事業を通じて社会の持続可能な発展に貢献するとの考え方にに基づき、地球環境としての課題解決への貢献、地域との共生、地域発展への貢献という観点から社会貢献活動を推進しています。

活動の目標と実績

[活動のテーマ] 社会に安心、信頼される企業づくり

	2023年度目標	2023年度実績	2024年度目標
リヴァックス	<ul style="list-style-type: none"> 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 世の中の食品ロスを減らす パートナーが安心して働ける職場環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> フードバンク関西への寄付 施設見学の実施 メルマガジンの発行 セミナーの開催 飲酒起因による事故ゼロ パトロールの実施(月1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 環境学習施設へ食育関連図書を送付 安心、信頼される廃棄物処理サービスの追求 世の中の食品ロスを減らす パートナーが安心して働ける職場環境づくり
リリーフ	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 生前整理セミナーの実施 合同慰霊祭の開催
ダイキョウクリーン	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加
大栄衛生	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 地域清掃活動への参加 献血活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加
大協	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流の実施 社会貢献活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会地域清掃への参加 清掃活動の実施(週1回) 	<ul style="list-style-type: none"> 清掃活動の実施(週1回) 子ども110番の登録 伊丹市高齢者地域見守り協定の登録 3Sパトロールの実施および改善(月1回)
グッドホールディングス	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 慈善団体などへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティレポートの発行 子ども農業塾に参加 チャイルド・ドリームへの寄付 報告書賞への応募 	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動への参加 慈善団体などへの寄付 サステナビリティレポートの発行 報告書賞への応募

子ども農業塾の開催

子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

子ども農業塾とは、阪神間の中でも豊かな自然が残っている甲山にて、子どもたちが土づくり(落ち葉堆肥づくり)や米づくりなどの体験を通じて、自然の仕組みに関すること、自分たちの生活のことについて学ぶ取り組みです。

食はもちろんのこと、その基となる農業について学び、実際に体験する場を提供することも社会的責任の一つであり、次世代の育成にもつながるとの思いからスポンサーと

して主催、運営事務局であるNPO法人子ども環境活動支援協会様と協働で開催しています。

2023年度は小学生のお子さんを持つ家族での参加を対象とし、10組のご家族と一緒に全5回の活動が行われました。

2023年度子ども農業塾1年間スケジュール

- 第1回 田植え・ニンジンの間引き
- 第2回 川遊び・夏野菜収穫
- 第3回 田んぼの観察・冬野菜の種まき、植付け
- 第4回 稲刈り
- 第5回 冬野菜収穫・しめ縄作り・修了式



永年勤続者表彰

功績をたたえ、10名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績をたたえ、永年勤続者として表彰しています。

グループ6社
永年勤続者(2023年度)

勤続年数	対象人数
30年	2名
20年	1名
10年	7名
合計	10名



従業員の心とからだの健康管理

安全衛生委員会をグループ全社で行っています

従業員が50人以上の事業場で義務付けられている安全衛生委員会の設置は、株式会社リヴァックス、株式会社大栄衛生および株式会社大協の3社が対象となり、各社で安全衛生委員会を設置し活動しております。また、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーンおよびグッドホールディングス株式会社においては、50人未満の事業場のみで設置義務の対象とはなっておりませんが、2021年度より3社合同での安全衛生委員会を設置し、従業員の安全衛生についての活動を行っております。安全衛生委員会における主な活動は以下の通りです。

- ・ 時間外労働や有給休暇取得状況の共有および対策
- ・ 健康診断の実施状況の確認および推進
- ・ ストレスチェックの実施
- ・ 産業医による面談、フォロー
- ・ 職場巡視および職場環境の改善
- ・ 安全衛生に関わる情報共有

上記の中でストレスチェックの実施状況については右上の表に記載のとおりですが、ストレスチェック後、希望者には産業医による面談指導の実施や、集団的に分析した検査結果をもとに職場環境の改善にも努めています。また、外部相談窓口も設けており、従業員が自分自身のストレス状況に気づききっかけづくりとメンタルケアに寄り添うサポート体制を整えております。さらに、メンタルケア対策として外部専門家によるラインカウンセリングやメール相談窓口を設置し、当グループ全従業員が直接いつでもどこからでも相談できるようにしています。

2023年度の各社ストレスチェック実施概要

大栄衛生

実施期間: 2023年11月

対象者	受検者
正社員	71名
嘱託社員	2名
アルバイト	13名
合計	86名

大協

実施期間: 2023年11月

対象者	受検者
正社員	37名
嘱託社員	1名
アルバイト	28名
合計	66名

リヴァックス

実施期間: 2023年6月

対象者	受検者
正社員	49名
嘱託社員	1名
アルバイト	50名
合計	100名

グッドホールディングス/
リリーフ/ダイキョウクリーン

実施期間: 2023年7月

対象者	受検者
正社員	100名
嘱託社員	2名
アルバイト	19名
合計	121名

「総合健康リスク」が低い企業として
ストレスフリーカンパニーとして
表彰されました

グッドホールディングス、リリーフ、ダイキョウクリーンのストレスチェックにおいて、2023年度の結果がストレスフリーカンパニーとして認定されました。



アルバイトを含めたグループ全従業員を対象に
健康診断を行っています

産業医による健康診断を年に1回(深夜勤務のある従業員は半年に一回)、実施しているのに加え、希望者を対象にインフルエンザの予防接種を行っています。健康診断の結果がC~E判定など正常参考値を超えた従業員については、産業医に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受け、社員の健康管理に対する意識を高めるとともに、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなどの健康支援に努めています。

採用活動

47名が新たに仲間に加わりました

事業拡大にともなう人員増強として、2023年度は新卒社員0名、中途採用者45名が入社いたしました。また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2023年度は2名のアルバイトを正社員に登用しました。

地域清掃

地域の美化活動に貢献しています

毎年、各事業会社にて自治組織主催の地域清掃に参加しています。2023年度は、鳴尾浜産業団地の自治組織主催の清掃活動に参加し、近隣のごみ拾いと草取り、周辺道路の清掃を行いました。今後も当活動を継続し、地域の美化活動に貢献しています。



廃棄物について学生たちに学びの機会を提供しています

関西大学第一中学校に環境学習を実施しました

未来の消費者に対する教育支援として、地域の教育期間に向け環境教育を積極的に開催しています。

株式会社リヴァックスでは、2008年度から関西大学第一中学校2年生に向けて継続実施しており、7月には産業廃棄物から再生エネルギーを生成する「西宮バイオガス発電プラント」の役割や仕組みについて学んでいただき、飲料製品の破碎後の容器やメタン発酵の原料となる食品廃棄物、原料の食品廃棄物がメタン発酵工程を経て、ニオイや色に変化していく様子を実際に見ていただきました。

この環境学習が学生の皆さんにとって循環型社会の構築や脱炭素の取り組みに少しでも興味関心を持つきっかけになれば嬉しいです。



産学連携の活動

関西学院大学の学生と
リサイクルプロジェクトを実施しました

株式会社大栄衛生は、関西学院大学の学生とともに不要となった飛沫防止パネルのリサイクルプロジェクトを実施しました。

プロジェクトでは、環境知識を深めるための事前授業を実施した後、学内で集まったパネルを素材ごとに分別する作業を行いました。今回の協働により、学生には分別の意義や工程を知ってもらうことでリサイクル意識の向上やSDGsへの関心を高める活動に貢献できたことを光栄に思います。



武庫川女子大学と包括連携協定を締結しました

グッドホールディングス株式会社が武庫川女子大学と社会的・文化的資源の活用及び人的資源の交流を図り、幅広い分野で協力し、SDGsの推進、地域社会の発展、人材育成に寄与することを目的として包括連携協定を締結しました。

この連携協定を通して、産学共創の強化により地域の活性化と教育及び人材育成などに寄与してまいります。



企業スポーツ活動

セーリングチームが
関西実業団7連覇を達成しました

当グループでは、2013年にセーリングチームを創部しました。以降、数々の大会で好成績を収め、2018年10月の全日本実業団ヨット選手権では日本一となり、また2016年および2019年には、日本代表として世界大会に出場するなど着実に実績を積み上げています。

2023年7月に実施された関西実業団ヨット選手権では7連覇という快挙を達成し、全国大会への切符を手にしました。



2023年度成績・活動報告

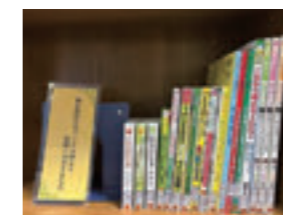
- 5月 関西スナイブ級ヨット選手権
山本・桑原ペア 3位
森谷・井堰ペア 4位
- 7月 関西実業団ヨット選手権 優勝(7連覇)
- 8月 全日本スナイブ選手権
山本・桑原ペア 17位
森谷・井堰ペア 34位
- 9月 全日本実業団ヨット選手権 5位
- 11月 全日本スナイブ級ミックスヨット選手権
森谷・児玉(大学生)ペア 10位

図書の寄贈を行いました

リヴァックスが食育関連図書の寄付をしました

株式会社リヴァックスが、2023年10月に食品ロスを削減するための教育活動の一環として、西宮市内の環境学施設3ヶ所に食育推薦図書約30冊を寄贈しました。

この取り組みは「環境学習都市にしのみや・パートナーシッププログラム」の事業として認定されています。



食品ロス低減の取り組み

リヴァックスが食品ロス低減を行う組織へ
収益の一部を寄付しました

株式会社リヴァックスが、2023年8月にフードバンク関西(兵庫県神戸市)、9月に兵庫こども食堂ネットワークへそれぞれ前年度の収益の一部を寄付いたしました。

食品ロスが問題となっている中、廃棄飲料、廃棄食品等をリサイクルすることによりその解決の一翼を担ってまいりました。本来であればリサイクルをする前にリデュース、リサイクルされるべきものですが、事業の特性上難しいため収益の一部を食品ロスの解決に取り組む団体の活動資金として寄付することにより貢献したいという思いです。

今後も食品ロスを減らす活動に継続的に還元してまいります。

AED設置と社内講習会を実施しました

鳴尾浜事務所にAEDを設置しました

職場における不測の事態の備えとしてAEDを設置し、近隣の住民や企業様にもお使いいただけるようにAEDマップ登録を行いました。

AED設置に伴い、従業員を対象に社内講習を実施し、AEDの使い方や救命講習の実演を行いました。

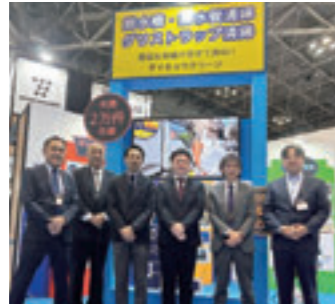


お客様とのコミュニケーション

展示会への出展

多くのお客様とお会いできる機会をつくります

事業内容やCSRの取り組みを知っていただくだけでなく、多くの方が抱えている現状の課題をお聞きするため、グループ各社がさまざまな展示会に出展しております。



2023年度に出展した主な展示会

開催月	出展会社	名称
11月	ダイキョウクリーン	ビルメン・ヒューマンフェア&クリーンEXPO

メディア出演・掲載実績

当グループ各社の取り組みを各メディアにて取材、掲載いただいております



Jレスキュー 2024年3月号

掲載媒体名・発行日	取材・出版会社名
週刊 循環経済新聞 2024年1月22日	日報ビジネス株式会社
Jレスキュー 2024年3月号	イカロス出版株式会社

掲載媒体名・発行日	掲載内容
現代ビジネスオンライン	赤澤代表「遺品は語る」からの抜粋記事
月間廃棄物 2024年3月号	リリーフの取組みを掲載
ならコープ機関紙「あをがき」	リリーフサービスを掲載
日本経済新聞 2023年8月31日	赤澤社長インタビュー

セミナーの開催、登壇

啓蒙活動に努めています

当グループでは、お客様や消費者の方が環境や社会問題に対して、関心・知識をもつことが大切と考えております。そのため、各社で定期的に情報を発信するとともに、みなさまが相談できる場を提供しております。

2023年度に開催、登壇したセミナー

開催月	名称
2024年2月	第17回産業廃棄物管理実務者オンラインセミナー

開催日	主催/名称
2022年4月16日	ニチリョクセミナー(東京) 「生前整理のいろは」
2022年5月20日	小田急不動産セミナー(神奈川) 「実家のお片付け成功のコツ」
2022年6月21日	東京福祉会セミナー(東京) 「生前整理のいろは」
2022年8月29日	興安寺 大須陵苑(名古屋) 「遺品整理セミナー」
2022年10月25日	ニチリョクセミナー(神奈川) 「生前整理のいろは」
2022年10月29日	公益社 長岡会館(枚方) 「生前整理のすすめかた」
2022年10月31日	はんしん高齢者(神戸) 「元気な今のうちにやっておきたい“おかたづけ” お部屋もココロもスッキリに!」
2022年11月11日	コープデリサービスセミナー(千葉) 「生前整理のいろは」
2022年12月21日	ニチリョクセミナー(東京) 「生前整理のいろは」
2023年1月19日	サンセルモセミナー(千葉) 「健康とお片付けセミナー」

社長ホットラインの設置

お客様からの大切なお声をダイレクトにお伝えいただけます

お客様のみならず、取引先様からのご意見や気づきを大切なお声として頂戴するために、グループ各社の社長へ直通するメールフォームをグッドホールディングスグループ全社のホームページで公開しております。寄せられたご意見は社長を含めて各部門にて共有し、今後のサービス向上に役立ててまいります。

市民の方々からのメッセージ

市民のみなさんからお手紙をいただきました

コロナ禍においては、地域の方々からたくさんの感謝の手紙やお声がけをいただきました。それらは、感染リスクの不安がある中で私たちにとって大きな励みとなりました。直接手渡しして下さったお手紙やごみ袋に付けて下さったメッセージカードは、作業員がすべて会社に持ち帰り、

全社員で喜びを共有しております。

これからも地域の豊かな暮らしを支える社会インフラとして、誇りを持って事業に取り組んでいきたいと考えております。



消費者課題への取り組み

ウェブカメラの設置

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

株式会社リヴァックスの施設内にウェブカメラを設置し、ホームページにてリアルタイムの映像を配信しています。遠隔地からでも廃棄物の搬入状況をご確認いただくことで、廃棄物処理の透明性を実現しています。



廃棄物の搬入・計量場所

契約外廃棄物の混入防止

コンテナに掲示板を設置し、混入防止に努めています

事前に契約したものと異なるものが混入していた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、事故や火災などの原因につながる可能性があります。株式会社リヴァックスでは正しい分別ができていない場合、すみやかにお客様に報告するとともに、設置しているコンテナ箱に掲示板を設置するなど、再発および混入の未然防止に取り組んでいます。

事業継続計画(BCP)の取り組み

BCP災害対策本部を設置しています

当グループでは、大規模地震ならびに大型台風の発生を優先対応リスクの一つとして位置づけ、被害未然防止のために従業員(とその家族を含む)の生命と安全を確保し、『地域社会の早期復旧』と『顧客の事業活動』に貢献すべく、可能な限りすみやかに事業を再開し、継続できるようBCP災害対策本部を設置しています。また、2020年3月には新型コロナウイルス感染症の拡大に対して、従業員の健康・安全の維持と社会的な使命を帯びた事業の継続を担保するために、新型コロナウイルス対策としてBCP災害対策本部を設置し、感染症による事業リスクや防止対策、感染した従業員への休業補償などについて協議、情報共有を行いました。

BCP訓練

2023年7月にBCP訓練を実施しました。台風および震災を想定した初動対応や安否確認を実施しました。

安否確認システム導入

人手に頼らず災害時に確実に従業員(正社員だけでなくアルバイトや派遣社員なども含め)の安否確認を迅速、確実に実施できるように、2020年9月に安否確認システムを導入しました。これにより、短時間での従業員の安否確認と情報伝達が可能となりました。

BCPマニュアル改訂

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、2020年8月にBCPマニュアルに新型コロナウイルス感染症に対する対応マニュアルを追加しました。感染症の予防対策、感染症疑いがある場合、濃厚接触者となった場合、感染した場合などの対応について、初動から具体的な対応内容について記載しております。

グッドホールディングスグループは チャイルド・ドリーム活動を支援しています



Child's Dreamについて

1990年代後半に計画経済から市場経済の道を歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々。「東南アジア諸国連合 (ASEAN)」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡

み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。

人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子どもたちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's Dream」です。子どもたちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。

グッドホールディングスグループが支援する理由

当グループでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできる会社をめざしております。

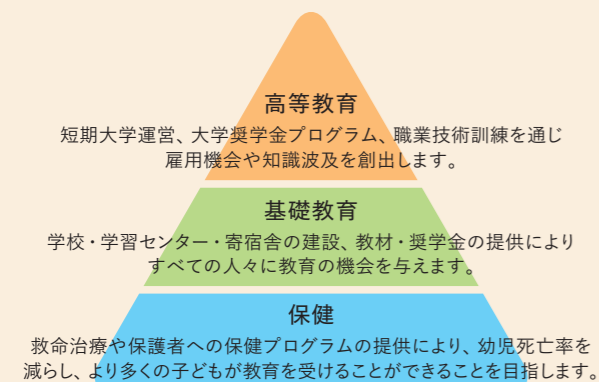
また、社員および従業員を含む関係者が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社会貢献においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。

株式会社リリーの「おかたづけサービス」で回収した不用品(家具、日用品など)を海外で再び活かす取り組みを2013年より始めました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪問するにつれて、さまざまな社会問題や経済格差を目の当たりにしました。

そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子どもたち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、グループ全体の売上の一部を寄付することとしました。

Child's Dreamの活動について

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。その中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会のつながりの基盤を構築することができ、所得獲得および質の高い雇用機会を生み出すことができます。



Child's Dreamの活動実績 (2023年時点)

高等教育	5,030名の学生へ職業訓練の指導を提供しました。 887名の学生に大学進学のための奨学金を給付しました。
基礎教育	451校の学校を建設しました。 3,475名の学生に高校または専門学校のための奨学金を給付しました。
保健	2,066名の子どもたちへ性教育を行いました。 16,835名の子どもたちへ健康・衛生教育を提供しました。 2,058名の子どもたちへ救命手術と医療支援を提供しました。

苦情・事故

2023年度の苦情・事故は122件(苦情16件、事故87件、労災17件、情報システム関連2件)でした。社会にとっても、働く従業員とその家族にとっても安全で安心な企業をめざし、再発防止に努めてまいります。

リヴェックス

※1 隣地企業様とは関係が良好であり、「少しでも気になったことがあれば言ってください」という関係の中で、苦情が計上されています。

件数	内容	原因	対策
	メタン発電プラント隣地企業様より臭気の苦情 先方社内でもメタンガス爆発の心配や不安の声が上がっているとの連絡を受けた	プラント試運転立上げ時の余剰ガス燃焼装置メンテナンスによるメタンガス放出の影響で強い臭気が発生してしまっ	・メンテナンスであってもガス放出は控える ・メタンプラントの安全性や爆発の危険性がないことについて説明し、社員の方への個別説明会実施のご案内を提案した ・改めて近隣企業様へ状況説明を実施
	取引先の排出物に、アルミ蒸着素材プラスチック容器の圧縮物が1m程度混入していたとの連絡を受けた	素材に関わらずプラスチック容器全般の扱いが良いと認識していた	アルミ蒸着素材の混入禁止を社内で周知した
	隣地企業様より臭気の苦情 ※1	乾燥後物を入れた運搬排出待ちの水密コンテナを屋外に一時的に置いていたものが臭気を発生していたと予想	場所を移動した
	隣地企業様より臭気の苦情 ※1	臭気元チェックをプラント全体で実施し、企業様側に接している換気口からかすかに臭気があり、そこから臭気が漏れたと予想	換気口外側にシートとアルミテープを貼り密封した
	隣地企業様より臭気の苦情 ※1	排水処理既設機の調整槽フタ部分から臭気が漏れていたと予想	・初動対応として、フタ部分に目張りを行った ・精度の高い臭気対策の計画を実施する
	処分先場内で乾燥後物排出後に臭い防止のため車両のコポレーン(ハネ)を閉めて退出するよう注意を受ける	排出後での臭気対策が実施できていなかった	・汚泥、残さの排出後は臭気対策のためコポレーン(ハネ)を閉めるよう手順書を変更し、徹底する ・部内パトロールの際に対策実施が確認する

苦情12件

隣地企業様より臭気の苦情 ※1	現地確認したが原因が特定できず、隣地企業様へのヒアリングでは30分~1時間後には収まったとの連絡を受けた		作業員へ内容を共有し、引き続き臭気に対して注視するように周知した
隣地企業様より臭気の苦情 ※1	現地確認を行い活性炭装置出口付近で若干の臭気を感じたが原因が特定できず、隣地企業様より既に臭気は緩和されているので対応不要と連絡を受けた		・排水処理において、ばっ気量をさらに下げて臭気の発生量を低減させた ・臭気が漏れないように社内でもシートシャッターの開閉を徹底するよう再周知した
取引先へ返却したパレット全体に汚損と異臭があると連絡を受けた	RMC建屋内の開梱作業場所に長期保管していたため、作業に由来する汚れや臭気が目についた		以下内容を手順書に追加し、従業員へ周知した ・返却パレットの保管場所は屋外保管に変更 ・レンタルパレット際は長期保管にならないよう納入日の古いものから返却する ・RMC建屋内で運用するパレットは原則廃棄パレットを使用
取引先へ排出した内容物に異物混入(茶葉)があると連絡を受けた	開梱作業に不慣れな作業員が一人で実施し、注意事項の共有が徹底できておらず混入に気付かなかった		以下内容の手順書を作成し、従業員へ周知した ・開梱方法、注意事項を記載した一覧表を作成 ・作業に不慣れな作業員が対応する場合は事前に一覧表を確認してから作業を実施する
高速道路で当社業務車両が危険な運転をしているとの連絡を受けた	-		社内で内容を共有し、注意を喚起した
取引先敷地から退出時に一時停止位置を失念し、注意を受けた	停止位置を失念してしまった		社内で内容を共有し、ルールの再徹底を実施、注意を喚起した

ウイング車に積んだ車輪つき容器の荷下ろしをするためアオリを開けた際、落下防止として使用していたアルミ製ストッパーが容器の重さで曲がり容器が落下した	アルミストッパーの劣化は認識していたが修復せず使用していた		鉄製の角パイプを購入し半年に1回点検を実施。劣化がひどいときは交換する
荷下ろしのため並んでいる列にて車両待機中、誘導員の合図があり、移動(バック時)の際に後方の車両と接触した	順番が前後して移動となった為、一旦バックし列から抜けようとした際、後方に車両がないと思込み接触		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
自社メタンプラント前処理棟で車輪付きの容器を人力で移動させていた際、近くに停車していたバックカー車に接触し、ヘッドランプカバーが破損した	スペースが狭かったが、通れないことはない判断し移動するも操作しきれずあたってしまう ※バックカー車が通常時と異なる場所にも停車していた		品目ごとに処理前物置場、作業工程ごとの導線・開梱場所、処理後物置場を決める
自社破砕棟前でフォークリフトを後退させてパレットから爪を抜く際にリフトの爪の付け根部分が鉄板と接触し鉄板が一部めくれ上がった	・リフトの爪をパレットから抜く際に、マスト部分を抱えた状態でバックしたためリフト付け根が鉄板に接触した ・パレットの設置場所に若干の勾配があり、事前にマストを抱えたことを忘れていた ・リフトマンは爪先だけで地面と接触していないことを確認したため、鉄板との接触に気づかなかった		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
ショベルローダ洗車中に左側フロントタイヤホイールの変形を発見した(申し出がないため状況不明)	タイヤがへこむほどの力が加わった状態で、壁にタイヤを擦りながら走行していたと予想(メーカ一見解により)		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した

物損事故26件

自社積替保管ヤードにショベルカーで進入する際にショベルカーの左前タイヤがヤードの支柱に接触した	ショベルカーの進入動線にバックが置いてあり、避けるため通常と異なる方向から侵入したため		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
フォークリフト走行中、タイヤが滑りハンドルが利かずブレーキをかけたが横滑りリフトのマストが反転投入機構の柵に接触し損傷した	野菜くずを専用バックから反転投入機専用バックに移し替えた際に、床面に汁がこぼれ、それをリフトで踏んだため横滑りした		・荷下ろしバック設置の手に、液体の多い取引先の荷下ろしは片付け・床面清掃までをセットで最優先事項とするよう追加する ・スニーカーを購入し、床面の清掃精度を向上させる
取引先駐車場から出庫する際に自社車両の右後輪付近と電柱が接触した	・電柱と車の車間距離が把握できていなかった ・すでに自車の横を通り過ぎていたため当たったことはないと思込みミラーでの確認を怠った		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
コンビニ駐車場から右折出庫した際にバンパーの左側が路面と接触しバンパーが破損した	出口の高低差がきついのには認識していたので徐行していたが、5tほど汚泥を積んでおり、いつも以上に車両が揺れて路面と接触してしまっ		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
破砕棟から商品をフォークリフトで運び出す際に、隣の列に保管していた商品とリフトの右ミラーが接触しミラーが破損した	・左壁が気になり右にハンドルを切った状態でバックしてしまっ ・三列あるうちの左側列だけの商品を取ろうとしたために、壁と商品に挟まれ通常よりも狭い状況になっていた		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
取引先施設で廃棄物排出後に計量する際、計量場所付近に別車両が停車しており、避けるために角度をつけて進入したところ、車両底部部分と計量器が接触した	今まで直進で計量に乗って車両の下部が接触したことはなかったが、いつもより角度をつけて計量に乗ったため接触してしまっ(低床車両)		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した
自社構内で吸引車を駐車する際に隣接する消防ポンプ小屋に接触した	次の業務があり、急いでいたため左後方確認を怠った		社内で事故内容を共有し、注意を喚起した



捉える、応える、超えていく

グッドホールディングス株式会社

株式会社リヴァックス

株式会社リリーフ

株式会社ダイキョウクリーン

株式会社大栄衛生

株式会社大協

お問い合わせ先

グッドホールディングス株式会社 経営サポート部

〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号

TEL:0798-61-1983 E-mail:csr@goodhd.co.jp

